

# 紫筍

第 35 号

創立50周年・校舎改築記念 特集号

特集・創立50周年・校舎改築記念式典

恩師から・同窓生から・在校生から

グラフィック レポート

記念講演・感動の種をまきつづけよう



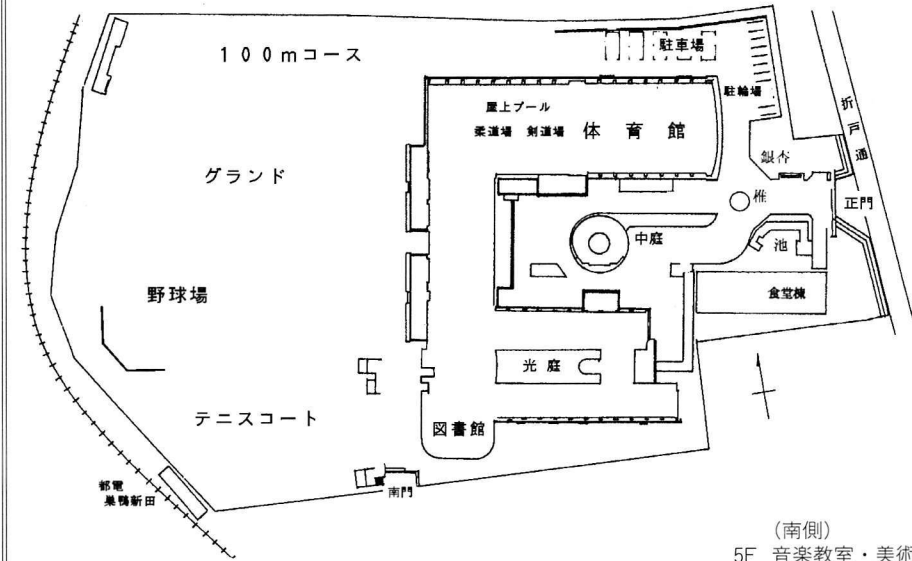
平成 4 年

直撃インタビュー・学問は高級なホビーだ  
校風を築かれた五先生

東京都立文京高等学校同窓会誌

〔東京都立文京高等学校〕

創立 昭和15年4月5日  
 敷地 28,432.39m<sup>2</sup>  
 建坪 14,700m<sup>2</sup>  
 課程 全日制課程普通科  
 定時制課程普通科  
 教室施設 普通教室28  
 特別室 11  
 準備室 12  
 運動施設  
 (屋内) 体育館 プール  
 剣道場 柔道場  
 (屋外) グランド野球場  
 テニスコート他



(南側)

- 5F 音楽教室・美術教室
- 4F 化学教室・生物教室  
教室3A/3B/3C/3D/3E/3F/3G/3H
- 3F PC教室・被服室・調理室  
教室2A/2B/2C/2D/2E/2F/2G/3I
- 2F 全日制部室・定時制部室  
教室1A/1B/1C/1D/1E/1F/2H/2I
- 1F 校長室・事務室・警備/用務員室  
教室1G/1H/1I 図書館・保健室

(中央)

- 4F 視聴覚教室  
物理教室・地学教室
- 3F 職員室・LL教室  
進路指導室・生活相談室
- 2F 放送室
- 1F ホール

(北側/アリーナ棟)

- 3F 屋上プール
- 1F 柔道場・剣道場  
アリーナ(体育館/講堂)

新図書館

文京高校の誇る設備のうち、今号では新しくなった図書館を紹介します。

両側の高窓からさす優しい光、明るい室内、落ち着ける閲覧席、機能的な配置、板張りの床、スロープなど、学校図書館として理想的な設備である。見学者が多く、用意した「図書館あんない」も既になくなり、今はコピーしたものを渡している。

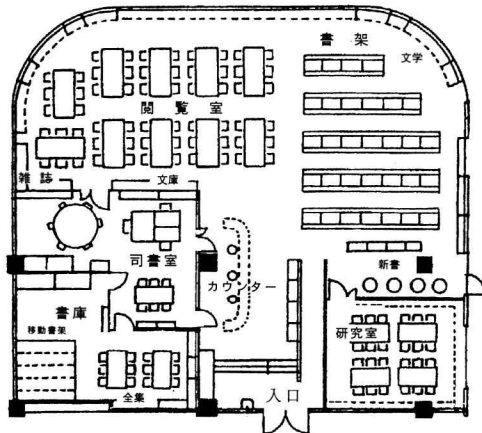
ちょっと小振りな図書館であるため時期的には生徒が入りきれず、他の教室も読書室として使用する。

蔵書には、諸橋轍次・漢和大辞典全13巻、群書類従全20巻など完備しており、懐かしい谷崎・荷風・有島武郎・白秋など、個人全集が揃っている。

司書の二先生に、年間受入数が少ないようですがと質問したところ、本が年々高くなったこと、それに生徒一人当りの予算も都内でも下位になっているとのこと。学生のために新刊の購入は大切で、年間千部強の受入数が必至、図書購入費を増やしてほしい、さらに備品も充実を図りたいとのこと。

蔵書の管理は行き届いていて、整然と置かれたカードケースには、分類・著者名・書名・件名の目録カードが納められている。

完成 1990年 面積398m<sup>2</sup> (約120坪) 座席総数 約100席  
 蔵書 約3万冊 年間受入数800冊  
 司書 小暮真由美先生 (司書教諭) 二瓶啓子先生 (学校司書)



カウンター(右側はスロープ)

書庫・個人全集、文学全集



# 目次

同窓会長挨拶……………1  
 同窓の実行委員を代表して……………2  
 学校長挨拶……………2  
 P T A 会長挨拶……………3

恩師から……………4

五十周年記念会に参加して……………4  
 思い起こす草創の第三東京市立中学校時代……………4

記念式典に参列して……………4  
 細木 歳男 先生……………4

思い出深き文京高校……………4  
 田崎 幾太郎 先生……………4

同窓会に寄せて……………4  
 菅野 二郎 先生……………4

誠と自由と愛の学園文京高校……………4  
 渡井 栄一郎 先生……………4

わが文京！……………4  
 竹内 道雄 先生……………4

最初の担任の頃……………4  
 吉野 哲也 先生……………4

五十周年記念誌とのかかわり……………4  
 松浦 佳子 先生……………4

創立五十周年にあたり……………4  
 稲留 土洲 先生……………4

人と人との絆……………4  
 後藤 秀雄 先生……………4

同窓生から……………10  
 榎 學 先生……………10

若き後輩諸君にエールを送る……………10  
 一期 B 組 今泉 徹……………10

〔都立文京高校学校案内〕について……………10  
 一期 B 組 小林 一夫……………10

創立五十周年に想う……………10  
 三期 C 組 藤ヶ谷 敏明……………10

激動の時代を生きる……………10  
 四期 A 組 秋谷 栄之助……………10

文京高校創立50周年祝賀会を終えて……………10  
 四期 B 組 静谷 晴夫……………10

青春の舞台……………10  
 5期 B 組 村口 昌之……………10

昨日 今日 明日……………10  
 26期 C 組 時田 公代……………10

新校舎を前に想うこと……………10  
 37期 H 組 佐藤 高史……………10

大好きな文京高校……………15  
 38期 E 組 江島 裕美子……………15

在校生から（式典より在校生祝辞）……………15  
 3B 齋藤 武……………15

グラフィックレポート 記念式典・祝賀会・寄贈品……………17  
 4B 鶴澤 和香……………17

記念講演『感動の種をまきつつけよう』……………30  
 3期 B 組 末 利光……………30

直撃インタビュー 『研究大好き学長・二期 A 組 高杉 暹さん』……………21  
 24 式次第・寄贈品目録……………21

校風を築かれた五先生……………24  
 26 協賛広告……………26

歴代校長先生のプロフィール……………26  
 28 奨学基金・紫筍協賛金……………28

写真 文化祭・体育祭……………28  
 32 新校舎・新図書館……………32

進路状況……………32  
 33 同窓会連絡……………33

卒業生数……………33  
 表3 予算・会計報告……………表3

今後の同窓会活動に期待する

同窓会会長 渡 辺 剛 彰

このたび、文京高校で実施された母校文京の歴史に残る創立五十周年・校舎改築記念の一大イベントの大成を、同窓を代表して心よりお慶び申し上げます。

一年中飛び廻っている私に代って、末正明君・西岡弘君など一期生の諸君が中核となって、実行委員会を結成し、文京高校が始まって以来の快挙を成し遂げられたことに、深甚なる敬意を表すると共に、実行委員各位が母校文京のために、長期に亘り貴重な時間を割いて会合を重ね、周到な準備をなされて当日に臨まれた労に対し、同窓生を代表し深く感謝申し上げます。

私達卒業生にとって、母校文京がこの様なすばらしいキャンパスを持てたことを誇りに思うと共に、今後はこの美しい校舎施設等を充分生かして、この器に相応しい充実された教育内容により鍛えられた若人達が、至誠一貫の伝統を胸に、立派な東京都民としての自覚と誇りを持って、社会に巣立ち、文京の名声をたかめる同窓の一員となられる様願ってやみません。その上からも今回の周年行事の成功は、文京の前途に栄光を与える意義深い催しであったと思います。

私は約二十年間、同窓会長の責を負って参りましたが、今回を機に職を退き、後進に道を譲ることにしました。今後は新会長の下で母校新校舎に会員の皆様が集まれるよう、同窓会の活性化と魅力作りをお願いし、母校の教職員や P T A の方々と共に、文京の発展のために後進の指導や助言をお願いする次第です。

会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

挨拶

校長 糸 太郎

この度の創立五十周年ならびに校舎改築記念行事の実施にあたりまして、同窓会の皆様には暖かい御支援と御協力を賜りました事を厚く御礼申し上げます。

当日、御参列頂きました来賓をはじめ関係各位から、数多くの賞賛の言葉を頂きました。生徒、PTA、教職員共々、大変感激しております。これも第一期生をはじめ数多くの同窓の方々が本校校訓「至誠一貫」の精神を貫き通された賜物と思います。特に、生徒は五十年の伝統の重みと諸先輩のこれ迄の足跡に触れ、深く畏敬の念を持った事と思います。

さて、平成六年度から新教育課程が実施され入学選抜制度も単独選抜制度と変わる事になりました。文京高等学校も、これを契機に新しい教育課程の編成、教育内容の精選に取り組んでおります。これ迄、諸先輩が築かれた伝統と栄光を二十一世紀に更に発展させるため鋭意努力しております。どうか、今後共よろしく御支援と御協力をお願いいたします。

同窓の実行委員を代表して

実行委員代表 末 正 明

「やった。大成功だ。」次々と校門からキャンパスに入って来られるOBの方々の姿に、実行委員一同は歓喜した。

実はこの行事は、既に第12代紺野校長先生の頃から検討されていたが、創立50周年という重みのある式典だけに、満50年を多少過ぎて、全校舎が完成した暁に『創立50周年・校舎改築記念』として大々的に行うことがよかろうと意見の一致をみていた。そして平成4年10月17日が決定され、来賓・恩師・同窓生をご招待して新装成った校舎をお披露目し、これを機会に文京高校を大いにPRしようということになったのである。

ところで後になってわかったことだが、当時として自慢のモデル校舎だった旧校舎の『竣工記念行事』が第3代奥田行信校長先生の下で昭和28年10月17日に行われていたことが判明して、なんと偶然の一致かと驚いたのだった。

記念式典の日程がきまり、学校・PTA・同窓会の三者一体の実行委員会が始動しはじめたものの、これだけの大イベントだけに何を企画しても不安が先行した。しかし、私達同窓会選出の実行委員は愛校心に燃える卒業生のみなさんの多数の参加を信じて、イベントの準備に邁進した。

そして迎えた10月17日は、心配された台風もそれで見事な快晴に恵まれた。この日キャンパスは人で溢れ、式典、校内施設の見学会、祝賀会のすべてに亘り活況を呈し、愛校心の強い文京高校OBの健在ぶりを目のあたりにした。

39年前の新校舎竣工記念日との一致といい、天候の恵みといい、



挨拶

P T A会長 彼島 巽

文京高校創立五十周年記念事業が盛会のうちに終了できましたことをともども喜びあいたいと存じます。他校での同記念事業がありましたのが、同窓会の果たした役割において文京は特別だったように思います。とりわけ「同窓会のつどい」は、これからの文京高校の地域社会とのかかわりの拡がりを感じられ、また今後の他校での企画にも生かされるものではないかと思うものです。

P T Aは式典全体をとおして運営スタッフとしてお手伝いをさせていただき、同窓会の方々とのおふれあいや、先生方の別の面にふれさせていただくなど全体的に理解が深まったと思います。

この周年事業は、学校と同窓会とP T Aが一体となって運営できたことがこうした大成功を生み出した根本でありました。そうしたことを企画推進された同窓会役員の方々に敬礼申し上げますとともに、文京高校同窓会の今後の発展をお願いし挨拶とさせていただきます。

この成功の陰には本校建学以来の今は亡き恩師の諸先生方のご加護があったものと信じたい。列席者の誰からも称賛の声が聞かれたので、これに応えて私は、同窓会としてもこの日を『愛校記念日』とさだめて毎年10月17日に総会を開き、同窓生の講演を聴くなどして永久に結束の日とすることを提唱したい。

私事になるが私は、多忙な渡辺会長に代って前例のないこのイベントの仕掛人のひとりとして目的を達成することが出来たことを密かに喜んでいる。もとより私自身は非力であるが、文京高校草創時代の卒業生有志の会「市三会」というバックがあり、この会に所属する同窓実行委員各位の全面的なバックアップがあつての成功であつたことを銘記されたい。私を含め母校の一期生の実行委員達は、いわば同窓生の長男であり、その長男としての責務を果たせたことに今は大いに満足している。

この興奮の冷めやらぬ実行委員の諸君の中から再度ご苦勞を願ひ、編集委員をお願いして、『紫筍』特集号を編纂することにした。この感動を止むを得ず出席できなかった全同窓生諸君にそのままお伝えしたためである。特に編集委員のみなさんは、記念式典の長い準備と後片付けで、たまりに溜まった仕事をこなされ、しかも年末という忙しさを背負つての編集作業であつた。本当に頭の下がる思いである。

さておわりに当たり、今回のイベントを支えて下さつた多くのP T Aの実行委員の皆様のご協力に衷心より御礼のことばを申し上げますとともに、「記念行事」を終始ご指導下さつた歴代の学校長、教頭、教職員、事務職員の方々に深甚の感謝を申し上げます。挨拶としたい。

(平成4年11月24日)

特別寄稿



五十周年記念会に参加して

佐々木 益 男

在職 昭和一五年〜三二年

一期A内田千里君と一緒に車を降りて、校門の前に佇む。入口から続く煉瓦の色と体育館と奥に見える校舎の白さと対照の美しさを目をひく。体育館の前に聳え立つ大櫓に、開校当時の校舎・校門などの佇まいが目につく。すると、生徒の先頭に立って、裸体操の姿で校門を走る川島校長の晴やかな顔が懐かしく迫ってくる。気がつくくと三期C藤ヶ谷敏明君が校門の内側に立ってこちらを見ている。



彼に案内されて控室に入る。生徒のお母さんたちが心から接待しておられる。学校、父母、卒業生が一体となって心から、この創立五十周年を祝っている様子に敬意とよろこびを感じる。

時間があるので、新しく完成した校舎をあちこち見てまわる。素晴らしい施設・設備である。それに多くの空間があつて、ゆとりを感じる。生徒の学習が配慮された素敵な環境である。全く今昔の感にたえない。人は環境と相互作用しながら成長する。個性豊かな人材が、我々のこの学校から多く育っていくことを期待しながら、祝

賀会場に至る。

会場は誠意と熱気があふれている。あいさつ、報告を聞いていると、*Men may come and men may go, but I go on for ever.* 「人々は来ては去つていくであろう。しかし、私はとこしえに進み行く」というテニソンの一句が浮かぶ。創立以来五十二年、幾多の変遷をくぐり抜け、校長、教師も来ては良いものを残して去つてゆき、生徒も来ては学んで去つてゆく。こうして、日々新たに、至誠一貫、文京高等学校は厳然と堂々と、とこしえにその道を進みゆく。

想い起こす草創の第三東京市立中学校時代

細 木 歳 男

在職 昭和一五年〜十九年



大塚駅からの街筋がすっかり変つていたので、タクシーで文京高校に運んでもらつて驚いた。創立当

時の巢鴨養育院跡の市立三中とは全く違った近代学的園がそこにあった。ただ校門を入つてすぐ目につく椎の大木が昔のまま繁つているのが唯一の昔を偲ぶよすがである。祝賀会場に入つてみると創立当時の先生では佐々木益男先生がすぐ判つた。懐かしさがこみあげて来る。八五歳で矍鑠として牧師として伝導に従つておられるのことに更に畏敬の念を抱く。創立当時の教師で生き残っているのは先生と私だけというわけである。その私もすでに傘寿である。

午後二時からのOBの祝賀会、何しろ創立当時一二歳の可愛い少年が今は六四歳の初老の紳士である。顔だけではさっぱり判らない。

だが姓名を名乗ってくれると名前は不思議に思い出す。渡辺剛彰同

窓会長、末正明市三会長は勿論辱知の間柄である。早川律三郎、原

田策司弁護士も同じ法曹で高知でお逢いした。「僕は二期生で漢文を

習いました。白文帖を出せと言われて、ぞっとしたものです。」とい

う紳士である。あつ思い出した、漢文の教科書から、返り点、送り

仮名のない漢字ばかりを帖面に写し取ることを宿題にしてその白文

帖で読ませたり、返り点送り仮名の練習をさせたのだ。その宿題を

忘れた者を叱ったり小突いた、今ならさしずめ暴力教師だったのだ。

「先生、僕は課外の相撲部員でしたよ。」という紳士もいた。これま

たあつと思ひ出した。川島校長がこともあろうに一五五センチ五〇

キロの小男の私に「君は土佐人で相撲が好きだろう、課外の相撲部

を作るから指導しろ。」と命ぜられて裸になって一、二年生相手に胸

を貸す真似ごとをしたものだった。中学生も三年生になると小男の

私などとても敵わず大相撲のプロの三段目あたりが来てくれるよう

になってほっとした。何しろあの頃は草創時代で私も何でもやらさ

れた。川島校長は書家でもない私に『至誠一貫右以テ本校校訓トナ

ス』と墨書させて、それを巻物にして学校行事のとき、うやうやし

くその巻物を広げて読みあげられるときは冷汗が出た。あの下手な

私の字はまだ巻物で文京高校に残っているらしい（創立四十周年記

念誌三枚目表写真参照）。早川君が車で送ってくれると親切に言っ

くれるのを断って、懐かしい山手線大塚駅まで歩いた。鈴木悟郎東

京電機大学教授と一緒にあった。実に楽しくも懐かしい一日であ

った。教師をしていたことが本当に良かったと雲の上のジェット機

記念式典に参列して

田崎 幾太郎

在職 昭和一八年〜四七年

荒れた焼跡に、モデルスクールとしてベランダ付きの校舎が建つた時、われわれは感激の眼でその建物を見上げ、教師も生徒も新たな意気込みで勉学に励もうとしたものであった。

以来四十年、登校下校の度に見上げた銀杏の老木は益々その枝を繁らせてゆき、屋上から眺められた富士山の夕影も、立ち並ぶ高層建築の陰に見えなくなってしまった。このようにして歳月が流れ、人は年老い、校舎は古くなっていった。



老人は再び若さを取り戻すことはできないが、校舎は新しい時代の要求に応じて、立派に改築され、創立五十周年の記念式と併せて落成祝賀会が盛大に行なわれることになった。私は久しぶりに昔の同僚や、古い卒業生に会えるのを楽しみに、朝から出かけて式典に参列した。

午後の同窓会主催の祝賀会には数百人の卒業生が集まり、こうした機会がなければおそらく会うことはできなかつたような古い卒業生に会えたのも嬉しかった。時間は時の間に過ぎて、一人一人と語り合う暇もなく終宴になったのは残念であったが、担任したクラスの二次会に誘われて、帰宅したのは夜の九時を過ぎていた。

学校は素晴らしい校舎に建て替わった。昔の不自由な環境でがんばった生徒たちが、社会の各方面に発展しているように、このめぐまれた施設で学ぶ生徒たちも、先輩に劣らず勉学に励んでもらいたいと思いつつ、記念すべき一日を過ごしたことであった。

（現職・弁護士）



菅野 二郎

在職 昭和二〇年～三六年

私が文京高校に奉職したのは、豊島中学校であった昭和二十年三月三十一日付で、判任官六等、本俸九十五円の辞令を貰った。校長は初代であった川島源司先生。先生は私の中学時代の恩師という関係から、先生最後の人事ということで、渡辺実先生の後任として、私を採用していただいたわけ。赴任して驚いたのは、奥田、奥園、河野、川島(計)といったこれまた私の中学時代の恩師が幹部教員として、校長を補佐しておられた。したがって、私はこれらの先生には全く頭があがらず、何かにつけて「菅野、菅野」とき使われた(この時のいろいろの経験が私のその後の活躍にプラスになった)。



この赴任の年は、日本の激変期で、文京高校にとっても苦難の年であった。私の宿直の夜に、空襲で校舎全焼、先生、生徒共に疎開、その為芹沢先生が会計、私が庶務を兼務した。その間に、焼跡に急造のバラック校舎を建て、とにかく授業再開。やがて、九中(今の北園

高)の地下室その他の間借り生活、次が文京区関口台小への間借り移転。しばらくして本郷元町小への間借り移転。この時は生徒が机、椅子を徒歩で担いで運んだ。その頃は二代校長の野口彰先生。

この校長の時、二部の小児麻痺後遺症の生徒が、学校のプールに転落死亡。その責任を取って野口先生が辞任、三代奥田行信校長になる。そして新学制施行による校名変更。二十五年三月私の担任クラスから東大、一橋大その他国公立二十名、私大二十七名の全員合格。二十七年には新築成る今の地に移転。実に多くの想い出がある。

渡井 栄一郎

在職 昭和二年～五二年

ある学校を卒業して上級学校に進んだりあるいはまた実社会に出たりすると、理由はいろいろあるが、母校を訪れることもなくなり、次第に母校から遠ざかるようになってしまふ。最近のように教育熱が高まり、幼稚園、小学校、高等学校、大学というような進み方をするようになると、卒業後は、たとえてみると人生行路での一宿場的な感覚でしか捉えられなくなってしまう。同期生や同級生の場合



は、同期生会とか同級会とかを開いて旧交を暖めており、これはこれで大いに結構なことではあるが、これとても母校との直接的な繋がりはやはりうすくなることに変わりがない。そこで、同窓生全体の連

繋、親睦を深めかつまた母校との疎遠化を防ぐため、同窓会の在り方について再考してみたい。どの学校にも同窓会とか校友会とかいう同じような会があり、その運営方法も似たようなものであるが、何か公式化されているようなところがあつて物足りない。今度の文京高校創立五十周年、校舎改築記念の集いが大成功裡に終わったのを見て、同窓会も運営方法を考え直せば、同窓会の活性化ができると思つたのである。要は積極的に参加したくなるような出席し甲斐のある会合ができればよいのである。もちろん、このためには、学校当局に積極的な援助をお願いしなければならぬし、また同窓会役員、同窓会費、同窓会場その他見直すべき問題が多々あるが、この辺でわが文京高校同窓会が他に先駆けて同窓会の活性化に取り組んで頂けたらと考える次第です。

在職 昭和二十三年～三十八年



十月十七日に行われた文京高校創立五十周年・校舍改築記念日に際しては、式典・祝賀会など全ての行事に参加し、多数の先輩・同僚の教職員、同窓生、

教え子の皆さん方に久方ぶりにお会いでき、ついで私の全日制最初の担任であった「あすなろう」同級会にも出席でき、無上の慶びにひたったことでした。文字通り「至誠一貫」の精神をもって実施された今回のすばらしい式典・行事について、学校当局並びに同窓会等関係者各位に改めて深く敬意と感謝の意を表するものであります。

私は今年満古稀を迎え、これまでの自分の人生は教師の人生であったことをしみじみ回想しています。私が文京高校に在任したのは二六歳から四一歳までの人生の花ともいべき青壮年時代で気力体力ともに充実した時期でした。校長奥田行信先生をはじめ多くの先生方の薫陶を受け、「至誠一貫」の校訓のもと自由と愛の心をもって教育と学問の一致を目指して励み、生徒諸君とは勉学に運動に、また文京祭の運動会・文化祭に楽しく有意義な思い出を多く生み出すことができたことをほんとうに嬉しく思っています。

私は文京高校を退職してからも、殆ど毎年、担任したクラスの会に招かれて出席し、社会的に立派に活躍されている教え子の皆さんに接し、歓談しつつ教師冥利に尽きる喜びを味わっております。私は、文京高校で教師生活ができたことに大きな誇りを持つと共に深く感謝している次第です。文京高校が誠と自由と愛の校風を愈々発揚し、益々多くの人材を輩出されるよう心からお祈り申し上げます。

(現職 愛知学院大学教授・理事)

在職 昭和三十八年～五十五年



久しぶりで校門前に立ったとたん、思わずうなり声を上げてしまった程に素晴らしくなった校舎、前庭等々。グラウンドもテニスコートも間もなく新設されるということで工事が進められていたことが、「わが文京」が見事なまでに立派になるのを目の当たりにさせて頂いて、ただただ嬉しくなりました。まるで、自分の息子が成長していく姿を目を細めてここにこ見ている思いでした。

どこもが眩しい程に輝く校舎内をご案内頂きながら、かつて「文京に骨を埋める」覚悟で務めさせて頂いた十七年間に本当に懐かしく思い出させて頂きました。

テニスの練習よりもコートの掘り返しで手にまめを作ったあのテニスコートはこの辺だったなあと、野球部の強打者がいい音を聞かせてくれる度に担ぎあげる瓦の枚数を算段し、棟梁(渋谷先生)のあとについて屋根瓦を修理したあの木造の体育館はあの辺だったなあと、なかなか底まで潜れない程深いプールの底面に彼女と自分のインシヤルを書いて歓声をあげていた例のプールや雷に打たれて裂けたポプラの大樹はこの辺にあったなあと……。

過ぎし日を懐かしく語るのには年を取った証拠だなどとひやかされそうですが、なぜか古い校舎の在りかを確かめながら、かつて一緒に汗を流し合った多くの卒業生や同僚の顔や声やしぐさまでもをありありと思ひ出していました。嗚呼「わが文京！」

(現・都立竹台高等学校長)



文京在任二十年のうち十七年間に担任として過しましたので、その原点ともいべき最初のクラスのHR活動のいくつかを思い出してみたいと思います。

一年夏のHR合宿のこと。クラス独自の企画に気軽に賛成したものの、職員会議で、自費で引率したところで引率責任の問題は免れないと指摘されて立往生、その時大先輩のK先生が自ら引率の応援を申し出て実施への道を開いて下さったのでした。八王子青年の家に宿泊し、一日目は登山、二日目は討論会「恋愛について」というもの。私的な合宿というのに、何と真面目だったことでしょう。

この時のクラスは委員選出や席替えなど事務的なことはショートHRや放課後に行い、HR委員を中心に独自の企画を次々に出してきました。北海道十勝地方の大冷害の際には、クラス全員で大塚や池袋の駅頭で募金活動を行いました。これは数ヵ月後、そのお礼にと箱一杯の香り豊かな鈴蘭が送られてくるという思いがけない感動をもたらしてくれました。クラス主催のベトナム映画会もやりました。極めつきは後期中等教育に関する答申が出された時でしょう。生徒たちは全文を「ガリ切り」して印刷し、二ヵ月程連続討論を行ったりしたのでした。

二十年の間には時代も生徒たちも大きく変化していましたが、語り出せば思い出はつきません。いずれにせよ、生徒や先生方に支えられつつ自由で暖かい雰囲気のある文京高校で二十年間を過ごせたことを今更ながらに感謝しております。



およそ二年ぐらい前、文京高校創立五十周年・校舎改築記念行事のための校内実行委員会が設置されることになり、四名が職員会議で選出されうち二人は村岡先生と私でした。そこで横先生（当時教頭）から村岡先生と私が記念誌担当を仰せつかりました。のち校内の編集スタッフは五人となり編集長は勿論、村岡先生です。編集長の基本方針は「事実としての資料」それも昭和十年代後半、昭和二十年代の資料を特に集めたいということでした。

しかし戦災、引越し等々資料は無きに等しかったのです。ために旧職員、同窓会の方々へのアンケート、同期会の集いでの記憶の掘り起し等すべてが同窓会の方々へおんぶに抱っこでした。ここで厚く御礼申し上げます。中にあるのは村岡編集長の寝食を忘れた（飲を除く）努力はことばにできません。彼の辣腕なかりせばです。おいしいお酒を頂きながらの記憶を確かめる会、懇談会等々今もって忘れられず、末市三会長さん、静谷先生にはお礼のことばもございません。そのような会にお招き頂いたとき、文京草創期の頃の同窓生の方々が母校に対する熱情を一人おひとりが一様にもってられることに私は深い感銘をうけました。それは何なのかという思いが今も私の心にあります。そしてそれを思うとき私は恥ずかしくありません。記念誌の頁をあげるといつも馥郁としたお酒の香りが漂ってまいります。さて記念誌の編纂に当って私は何をしましたか。編集長と碁ばかり打っていたのです。碁を打っていたらいつのまにか記念誌が出来上っていた。これが私の自慢？です。現職 昭和四二年より



## 創立五十周年にあたり

後藤 秀雄

在職 平成元年～四年

創立五十周年を迎えたことを、心からお慶び申し上げます。

新校舎落成記念とともに行なった記念式典も、関係の皆様のご援助、ご協力によって無事に終わり、慶賀の至りです。



この五十年の間、社会はめまぐるしく変わり、生徒や教員も年々変わりましたが、文京高校が、世に誇り得る学校として発展してきたことに変わりはありませんでした。これは、第一期生からの同窓生が素晴らしい実績を挙げ、良き伝統を築いて、これを連綿として受け継いできたことによるものが大であると、同窓生の皆様に改めて敬意を表します。

しかし、都立高校のあり方が問われている現在、五十周年を迎えて、ただ半世紀を回顧するに終わることなく、今後の文京高校の飛躍に向けて、関係者一同が努力したいものと願っています。その意味で、新校舎の完成は、誠に良い機会だと思っています。

旧校舎は近代的な造りで、かつての高校のモデルスクールとしてあまりにも有名でした。新校舎も明るく、堂々としており、これからの文京生を育み、生徒ひとりひとりの力を伸ばしていくのに十分な容れ物であると思います。改築にあたっては、かつて卒業生や教員が植え、見守ってきたヒマラヤ杉やけやき等の木々の一部が、止むを得ず伐られるという残念なこともありましたが、新校舎完成を機に、過去の五十年のすべてを糧にして、文京高校が限りなく発展するように祈るものです。

## 人と人との絆

横 學

在職 昭和六二年～平成四年

この度の記念式典に参加させていただき有り難うございました。たいへん立派な式典に感動いたしました。私は丁度改築の始めから完成寸前までの五年間文京高校にお世話になりました。その間に私にとってたいへん多くの学校関係者のご援助をいただきました。同窓会、PTA、旧職員の方々など文京高校のために何かお役に立つてもらえると思うときは厚かましくお願いをしました。お詫び旁々感謝申し上げます。

時代の変化でしょうか、人と人とのつながりが段々無機的になっていくのは個人主義の世の中では仕方ない流れかと思えます。学校もその例外ではないのかもしれませんが。ただ私は分厚い同窓会名簿を見て文京高校の歴史を感じました。その中に流れるこの学校で過ごした熱き思いはきつとみんな共通に持っていたし持っていると思えました。ところが残念なことにその縦の流れが非常に希薄に思えました。正直申して、先生方も同窓会の方にも。若い人は、もちろん生徒も、人間は多くの人との触れ合いによって成長するものです。子供は多くの人に暖かく包まれていると感じたときに頑張りや鍛練や努力を自然の中でしていくものだと思うのです。そこで私は先生とPTA、PTAと同窓会、先生とPTAと同窓会と出来るだけ生徒のためになることで会合を持ち話し合ってもらいました。



今後、この記念式典で培われた人と人との絆を一層太くしていったら、「老いも若きも一堂に会して声高らかに文京高校ここにあり」とそんな日が五年に一回くらいあってもいいのではないかと思うのですが。

若き後輩諸君にエールを送る

一期B組 今 泉 徹

母校文京高校にとり、創立以来52年目で初の本格的な周年行事のご成功を心からお慶び申し上げる。

バブル経済崩壊後の大不況の只中で上京参加も叶わず、至誠一貫で今も働き続けている高齢者から、母校の若き後進社会人に、私の在校時代を顧み、処世訓を述べ、御参考にしていただければと思う。学校創立の昭和15年、私達一期生は、現在地にあった巣鴨養育院分院に入学した。当時の校舎・校庭は、養育院と同居で入学直後の五月の端午の節句には、大きな鯉のぼりを校庭に立てて養育院の児童たちにおくり、懇親の意を表す。一方、蚤・南京虫にもお目にかかるという必ずしも恵まれた環境ではなかったが、新しい理想を新しい中学に求める先生方の心意気は、私達生徒に伝わったし、私達も良い校風を作ろうと頑張り、互いに気合いの入った新中学の出発であった。一年生だけで始まった中学校の内容は、なかなか個性のあるものであったと思う。先生方は各々に実力と理念とを兼ね備えておられたし、学校内教育の他に、特長のある参考書を著述出版されていた先生方も多かった。又、生徒達も所謂、優等生型は少なく（いなかっただかな）戦時下での裸体操、勤労動員体制下でも、個々には勉強にも集団生活にも結構楽しんで過ごしたのではなかったかと思う。

今私も六十五才になって考えるに、社会とか会社とかいいう集団についても、中学（校）時代と同じく、少々周囲の状況が悪い場合でも、希望と理念とを持って、そして各自が個性を持



ち続けて頑張れば、社会も会社も必ず活性化すると考えたい。

〔都立文京高校学校案内〕について

（日本スピンドル製造(株)社長）

一期B組 小林 一夫



都立有名高校集中を崩すため昭和四十二年四月より「群制度」が敷かれて十五年、五十七年からはそれを少し緩和した「グループ制」に変更して十年、計二十五年の四半世紀を経ました。尾羽打ち枯らした都立高校の人気はご存じの通りです。

今から十一年前、市三会代表の末正明君に「多くの私立校が学習塾宛に毎年〔学校案内〕を郵送して来るが、文京でもやったら如何か。」と進言したところ、学校当局・同窓会で採択され、最初の二、三年はモノクロで、その後カラーで「文京高校学校案内」を第四学区の文京・豊島・北・板橋区内二百の塾に毎年九月に郵送しています。塾の盛衰も激しく、前年は届いたものが六パーセント程が返送されて来ます。今年NTTのタウンページが第四学区と同じ文京・豊島・北・板橋区になり、学習塾を数えてみると十年前の二倍の四百塾になっていました。以前は小学校五年生からが多かった塾生も今では小学一年生から来る子も珍しくありません。

さて都立高の人気衰退に反し私立校の人気は目覚ましく、中でも女子校の人気の一つに制服のファッション化があります。大手出版社が出す「来年度高校受験案内」には各校の制服を着た高校生の姿がグラビア頁に掲載され、これを見て中学生が胸を膨らませ、憧れる時代になっています。志願者が増えれば、自然と優秀な生徒が多く集まるといふ具合です。既に過半数の私立女子校では、ここ五、

六年でファッション化を完了し、レベルアップに成功しています。数年前、都立高校でも実際に行われています。板橋高でチェックのスカートを含む複数の制服を決め実施しました。それまで年々入学希望者が減り、平成元年には定員二百七に応募二百三十六、実際に受験した者百八十八で、競合していた志村高に並べましたが、制服着用の次の年は、学区最高の競争率を記録し、四百五十二の応募になり、レベルも回復しました。また九段高も学区の枠から離れた独立校になり、今年から新しい制服になりました。

平成六年度から都立入試も新しくなります。十年位前中央区で中学が統廃合され、今また千代田区で小学校の統廃合でもめています。都心にある学校は生徒の激減で数年先は日比谷高も、番町小学校と同じ運命を辿らなければならなくなるでしょう。同じ区内の錦華小学校の最後の開校記念日には「秋篠宮殿下と紀子妃殿下がお見えになった。」と塾生から聞きました。今度の新制度では、隣接の学区からの受験を認める事になりましたが、これは都心の過疎化による名門都立高の廃校の歯止めと考えます。この事は四半世紀前の状況に一步近づいたと思います。渡辺同窓会々長の紫筍での談話によると創立一期生二百人中三十人以上が東大へ進学したと、また同窓会誌によると群制度以前の昭和三十八年の春には三百九十八人が卒業し、東大五、京大四、一橋三、東工大二、筑波八、早稲田五十二、慶応十二、上智十一を含む国公立大七十八、私立大二百三十八、短大十九の計三百三十五名の合格者が燦然と記録されています。

新制度発足、新校舎完成、創立五十周年記念行事大成功の、この機会に学校・PTA・同窓会が一丸となって、都立文京高校発展のために頑張ります。

(小林学習塾々々)

創立五十周年に想う

三期C組 藤ヶ谷 敏 明

創立五十周年記念式典と同窓会による祝賀会が、澄みわたる秋空のもと、清々しく整った新校舎で盛大に挙行されましたことを、心からお喜び申し上げます。

祝賀会の開会に当たり、物故された恩師ならびに同窓生のために黙禱を捧げました。あらためて、戦中戦後の激動と発展の中で活躍され、亡くなられた方々への惜別の念を深くすると共に、生きていくことの幸せをつくづく感じさせられました。



会場の体育館は、草創期の恩師をはじめ、現役の教職員と、数百名の同窓生の明るい談笑と歓声に満ち溢れ、同窓会始まって以来の素晴らしい、心に残る盛り上った祝賀会でした。

この喜びの中で、五十年前の様々な生活が蘇って来ました。養育院跡の古い校舎、当時珍しかった完全給食、一列励行の登校と毎日上半身裸の朝礼、夏の妙高山の全校合宿、敗戦までの長期工場動員と二人の級友の事故死、空襲による焼土化と敗戦、瓦礫の中の授業と市街地焼け跡片付け動員、元町小学校での授業などが次々と浮かんできました。同時に、敗戦で得た平和と自由、明日に生きる希望が持てる生活の到来に感動したことも、思い出しました。

さて、平成六年度からの単独選抜は、必然的に各高校の特色ある個性化を要求してきます。今こそ文京の整った環境と最新の施設設備を生かし、五十年の風雪を貫いた校訓「至誠一貫」を柱に「魅力ある文京の教育」を創造する時だと思えます。生徒・教職員・同窓生が共に、今以上に誇れる学校となるようご発展を祈念致します。



激動の時代を生きる

四期A組 秋 谷 栄之助

アメリカの大統領選挙も「変化」を求める民衆の声が、若き四十大の大統領を一国のリーダーとして選出した。時代は変化を求めて激動しているのが常であり、所詮、私たちの人生もまた、変化、変化の連続の中にあるといえよう。

昭和12年に入学した小学校は、尋常小学校だった。それが卒業する18年には、国民学校に変わっていた。



中学への入学は、東京市立三中、戦鬪帽に背のうを負い、ゲートル巻いて、大塚駅から一列登校など夢物語に近いが、やがて、東京都になり、都立豊島中学校となる。

軍需工場への動員、授業はなし。戦災で丸焼けになった大塚の焼け跡に、瓦礫の後片付けやら、土管を割って便器を造り、プレハブ校舎を作ったまでは記憶にあるが、授業の記憶は余りない。

やがて、文京区本郷元町小学校へ移動。これも炎天下で、他校から机や椅子をもらって、かついで歩いた記憶の方が鮮烈で、どうも勉強した思い出は少ない。

悔しい思い出の一つ、豊島中学から早大第二学院へいった私は、中学は中退、新制大学へ二年で移行、当時母校の文京高校の図書館に勤務したが、東京都職員の資格は、最後まで小学校卒で給料は安かった。これほど学歴で差別され悔しい思い出をしたことはなかった。

学校教育は決して知識だけでなく、人間性、智慧をみがき人格を作ることであり、激動の時代に、教育の原点を見た思いがしたのは、同時代に生きた友人たちの共有財産ではないかと思っている。

(創価学会会長)

文京高校創立50周年祝賀会を終えて

四期B組 静 谷 晴 夫

平成4年10月17日午後5時、第2会場でのPTA委員の納会が、「萬歳！」で閉会した時、ああこれでやっと終わったという安堵で、本当に肩の荷がおりた。



この大盛況裡に終わった50周年式典の裏方の一人として、一筆記しておきたい。

平成4年2月、今回の祝賀会の実行委員会に出席した折には、同窓会員の申込はまだ百名余に過ぎず、同窓会幹部の対応も非常に冷やかな感じであった。当時の榎學教頭から同窓会に対し奮起を促がす要請がなされ、旧制一期生の末正明氏が任しておけと請け負われたが、正直のところどうなることやら全く不安であった。が直ちにPTA実行委メンバーとの交渉を開始、動き始めたところが、その後間もなく、3月末で後藤藤雄校長がご退陣、榎教頭もご転出という最悪の事態となり、末さんを中心とする同窓会側にも焦りが生じてきた。6月の同窓会幹事会で、全く動けない渡辺同窓会長に代わって、末さんが実行委員会副委員長を依頼され、同窓会を代表して準備を推進することとなった。余すところ僅か一日。この時点での参加申込一五〇名。この日から末氏を中心とする同窓会有志の我武者羅な猛進が始まった。誌面の都合で記載出来ないが、PTA役員の方々のご協力は大変なもので、ここに心からの感謝を申し上げる。

色々の批評はあろうが、学校始まって以来の祝賀会の盛況の陰に、末さんを中心とした同窓生有志のご尽力があったことをご報告し、同窓会がこれを機に更に更に発展することを期待したい。

(内科 静谷クリニック)

去る十月十七日の式典と同期会に、先生方（菅野、中谷先生）と懐かしい旧友達に出会えて、白髪まじり、シワの多い貫禄の笑顔の中に昔の美少女、美少年を見出し、お互い楽しい思い出の一時を過ごすことが出来ました。新制五期の我等が岸本氏、各クラス幹事の方々のご尽力に心より感謝いたします。職業柄ということ、母校の新社舎の印象が大変に良かったことをご報告いたします。折戸通り？から正門を入ると、樺の大木が鬱蒼と茂って、駅から細かいビルの立ち並んだゴミゴミした街を通過して来た目には、レンガタイル敷きの中庭をとり囲んでコの字型に建てられた四階建の校舎が、落ちていて新鮮にうつりました。植栽の緑も美しく、中庭の広場等も学校というよりも、何やら公園の趣でした。右側が屋上にプールのある屋内体育館、左側が食堂棟ということで、校舎も正面にある学生の玄関吹抜ホールもゆとりをもってつくられてありました。ページ色の外壁をひきしめている屋上のゆるくカーブのついた緑色の屋根が、堅さを消しています。



二十五年に入学したのは水道橋の焼け跡に建っていた元町校舎、当時モデル校舎の大塚に二十七年に戻りました。先輩の方々は焼けてしまった木造校舎で学ばれた由、皆が役者だった学園生活の青春、舞台は変わっても、何かが伝えられてゆくのでしょうか。母校の今後の繁栄と、皆様方のご健勝を心より祈ります。次の同期会は還暦の祝いを兼ねてという話に、もう少し早くしないと……という声も聞こえて

おりました。

（日本工業大学教授 村口計画設計事務所）

「カーン・カーン・カーン……」都電のシグナルと野球部の泥まみれの姿が交錯し、ふとグラウンドに目をやると、そこには国技館の数千倍とも思われる土俵が……、思わず目をみはった。昭和63年の秋より始まった母校の改築工事の最後の仕上げのグラウンド整備の様子である。小生が文京高校で、再建自治会の会長を務めてから奇しくも20年の歳月が経ったのであった。さきの50周年記念誌で現齋藤自治会長が、「我等『文京高校自治会』を最後の砦として、名実共に生き返らせる事を次代に託したい。」と語っている姿を見るにあたり、心に熱いものが流れるのを感じた。

今日この日を省みれば、最上の一日である事もあるであろう。また、心のページから葬り去りたい程の悲しく、つらい一日であるかもしれない。しかしながら、「今日」という日は、「昨日」からみれば「明日」であり、「明日」からみれば「昨日」なのである。つまり、「昨日」の成功は、「今日」への活力となり、「今日」の失敗は、「明日」への礎となり、かつ希望へと繋がってゆくのである。過去の歴史や経験、成功や敗北、喜びや悲しみ等々を、人は必ずず持っていると同時に、未来への希望や、チャンスや、チャレンジをも持つことを許されている筈である。



我々の先輩が築きあげた「至誠一貫」の校訓のもと、自由で、自主性に溢れ、心豊かな「文京学園」の諸兄ならびに同窓の諸君におかれては、是非とも、希望と活力に溢れた日々を過ごして戴きたいと祈る今日である。

365日は「今日」から始まるのだから……。 （榊トキタ代表取締役）

## 新校舎を前に想うこと

37期H組 佐藤 高史

「あなたは散々母校に迷惑をかけたのだから、同窓会幹事にでもなつて少しは恩がえししなさい！」教室中に大爆笑と拍手が起り、満場一致の決議をもって私は同窓会幹事に任命され……卒業式の日からはや八年、月日の経つのは本当に早いものです。先日の創立五十周年記念式典には残念ながら出席することができなかったのですが、非常に多くのご来賓並びに同窓生の出席により盛況を極めたと聞いております。一同窓生として喜ばしく思うと同時に、大したお手伝いもできなかった事を心苦しく思います。私は現在、大学時代に設立したマーケティング会社を友人や後輩達に囲まれ経営しております。文京時代の友人や後輩も集まってくれており、頑張ってもらっています。お世辞にも順風満帆とは言い難いのですが、社会の荒波にもまれながら航海中です。文京の友人、先輩後輩に助けてもらうこともしばしば。そんな時、同窓の有り難みを中心から感じます。人と人との繋がりは時として人生に警えようもないほど大きな影響力を持つもの。今は助けてもらってばかりですが、いつか私もお役に立てることができるとは思いません。そう思い、微力ながらこれからも文京高校同窓会のお手伝いをさせて頂くつもりです。新校舎はすっかり様変わりしましたが、木立にはまだ当時の想い出が漂います。校門前にて、高校時代の恩師高瀬先生はじめ諸先生方へ。「まだ母校への恩返しは終わりそうもありません。でも、これからの私を見ていて下さい。それから、お体には気をつけて。」



(株)コラーージュ代表取締役

## 大好きな文京高校

38期E組 江島 裕美子

都立文京高等学校創立五十周年、誠におめでとうございます。わたくしの文章ごときが記念号に載るなんて恐れ多くて……。ただただ母校「文京高校」が大好きなのでその想いを書かせていただきます。

私が文京高校を卒業して早七年の月日が過ぎましたが、文京で過ごした三年間は私が二十五年間生きてきた中で一番楽しく輝いていた（…と思われる）三年間でした。その時は辛いことも、悲しいことも沢山ありましたが、今となっては全てが楽しく思い出されます。毎回異常な程盛り上がったスポーツ大会、雪の残る体育館の裏を走ったマラソン大会、ビニールひもを裂いて作ったボンボンを持って屋上や渡り廊下で集団演技の練習をした体育祭、吹奏楽部とクラスの仕事や掛け持ちして校内中をバタバタ走り回り忙しさを楽しんでいた文化祭、遠足、修学旅行、吹奏楽部の演奏会…とにかく思い出いっぱいのある三年間でした。



私達が「青春」を過ごした校舎も今では見違える程ピカピカになり、先日記念式典で学校を訪れた折にはスリッパを履いて校舎の中を拝見させていただき、土足で走り回っていた私としては少々寂しく感じましたが、真新しい校舎で「青春」を過ごせる今の生徒たちをうらやましくも思いました。校舎は新しくなりましたが、私達卒業生を見送ってくれた椎の木が今も変わらず茂っていることを嬉しく思います。

これからの文京の発展も椎の木が見守ってくれることでしょう…。



## 在校生挨拶

全日制生徒代表 3B 齋 藤 武

本日は、ご多忙にもかかわらず多数のご来賓の皆様のご臨席を頂  
きまして、まことにありがとうございます。私達在校生と致しまし  
ても、この五十周年という節目の式典に参列出来まことは、大変  
な誉であり、うれしく思います。

ところで、本校は旧制中学校として創立以来、この五十年の間に  
は太平洋戦争や終戦後の学制の改革、何回かに及ぶ入試制度の変革  
などの幾多の内外のうつり変わりがあつたと諸先輩方よりうかがつ  
ております。歳月の流れと、このように本校が激動の時代を歩ん  
て来ましたことを考えますと、感慨無量の念を禁じ得ません。一方、  
こうした中であつてこれまで一万七千人もの卒業生が生まれ、そし  
てこれからも巣立って行こうとしております。その最も新しい世代

の一員として、私達はこれまでの歴史と  
これからの未来に対し、今ここに緊張の  
思いを新たにするものであります。

さて、これからの文京高校はどのよう  
に歩んで行くのでありましようか。学校  
内のささやかなことから地球規模の事件  
に至るまで、今後とも世の中は時々刻々  
と変動して行くであります。しかし、  
今までの伝統と恵まれた設備を十分に生  
かし、後輩と共にこれからの文京高校を



更にすばらしいものにして行きたいと存じます。  
それでは、以上をもちまして甚だ簡単ながらお祝いの言葉とさせ  
て頂きます。

平成四年十月十七日

## お祝いの言葉

定時制生徒代表 4B 鷺 澤 和 香

本日は、都立文京高校創立五十周年、並びに校舎改築記念式典、  
本当におめでとうございます。

定時制生徒を代表して、心からお喜びを申し上げます。

私は、平成元年に、この文京高校定時制に入学しました。

その頃は、ちょうど、新校舎が建築中  
だったので、一年間、旧校舎で過しま  
した。

随分、古い建物だったので、夕方、学校へ  
登校する時は、もう、辺りは薄暗くなつ  
てきており、よくお化け屋敷のように感  
じたことがあります。

当時は、教室が、この体育館の場所になりました。三年経った今、  
こんなに変わってしまうものなんだ、と思ひながら、あの頃のことを、  
懐かしく思い出しています。

正門を入れて、すぐ右側にいちようの木があります。秋になると、  
たくさんのおぎんなんの実で、木が賑やかになります。定時制では、  
給食があるので、そのおぎんなんの入った茶碗蒸しが出され、それを



食べるのがとても楽しみです。

このいちじょうの木を、私達は、文京の木と呼び、たいへん愛着を持っていきます。

さて、新校舎が落成し、初めて見た時は、どこかの私立高校のような感じがし、なんとなく違和感があったのを覚えていきます。しかし、この新校舎にも、今では、すっかり慣れ自分の家のように感じています。

今、思うと、校舎や体育館が、一つずつ落成するにつれて、私達も順々に進級してきたような気がします。

そして、来年の春には、もう、卒業です。

四年間、うれしかったこと、つらかったことなど、様々なことがありました。何度か、学校をやめてしまいたいと思ったこともありましたが、しかしそんな時、この文京高校にあるたくさんの緑を眺めていると、自分の気持ちが落ちついてきて、「よし、最後までがんばろう。」という気持ちになって、今日まで通い続けることができました。

そして、このような気持ちを持てるようになったのも、先生方や多くの友達の支えがあったからだと思います。卒業しても、文京高校で学んだ多くのことを、いつまでも忘れずに、未来に向かって大きくはばたいていきたいと考えています。

最後に、文京高校がこれまで培ってきた伝統や校風をより発展させて、さらに素晴らしい良き学舎になるよう心よりお祈り申し上げます。

本日は、おめでとうございました。

平成四年十月十七日



同窓会寄贈書庫

記念式典 式次第		本校体育館
開式の辞		来賓祝辞
校歌斉唱		来賓紹介
校長式辞		生徒代表のことは
東京都教育委員会挨拶		閉式の辞
記念行事		
吹奏楽演奏「ポピュラー音楽50年史」		
記念講演「感動の種をまきつづけよう」		
祝賀会次第(第一)	本校剣道場	
開会のことば	乾杯(歓談)	
実行委員長挨拶	万歳三唱	
来賓挨拶	校長謝辞	
感謝状贈呈	閉会のことば	
祝賀会次第(第二)	本校体育館	
開会のことば	(歓談)	
同窓会長挨拶	湯島天神太鼓	
来賓挨拶	(歓談)	
祝電・寄贈品紹介	おたのしみ抽選	
スライド映写	閉会のことば	
乾杯	万歳三唱	
	司会 榎本、望月	

寄贈品目録 (寄贈者)	
1、絵画	
「岳」 日本画F20号	鶴田 照 一 C
「ヴェネツィア」洋画10号	若林 成佳 2 A
2、書籍(著書)	
「新・技術経営論」	山之内昭夫 1 D
「日本人の深層心理」	木村 駿 三 C
「日本人の対人恐怖」	木村 駿 三 C
「人前で本番であがらない心理学」	木村 駿 三 C
「なぜ自分が好きになれないのか」	木村 駿 三 C
「ストレスを自在にコントロールする本」	木村 駿 三 C
「ことばのおへそ」	木村 駿 三 C
「間の美学」	末 利光 3 B
「クリーン選挙」	末 利光 3 B
「説得必勝術」	中村 昌男 5 E
「朝礼話のタネ」	中村 昌男 5 E
「ひとり旅の飛驒写真集	田草川太悟 7 C
「飛驒の絵本」 写真集	田草川太悟 7 C
「ふるさとの光影」写真集	田草川太悟 7 C
(「追悼集等」)	
初代校長「川島源司伝」	川島 初子夫人
初代教頭奥田佐吉「平歩千里」	末 正明 1 B
第3代校長「奥田行信先生追悼集」	西岡 弘 1 C
三期学年主任川島計治「計さん」	末 正明 1 B
3、資料・在校時代の所持品	
昭和25年体育祭、文化祭等の資料	神永 明弥 5 F
教科書など	江角新一郎 1 B
生徒手帳・バッチ・バックルなど	花形 弘道 2 A
通学カバン(背囊)	藤ヶ谷敏明 3 C
4、書庫	
両開き書庫 1 (写真)	同窓会





式辞・糸太郎校長先生



祝辞・同窓会長渡辺剛彰氏

GRAPHIC REPORT  
記念式典

平成4年10月17日  
母校体育館



式典全景



吹奏楽演奏・本校吹奏楽部



記念講演・末利光氏





第四代校長・  
稲崎修平先生ご挨拶

GRAPHIC REPORT  
祝賀会



アトラクション・湯島天神太鼓



テープカット・左から桑校長先生、彼島PTA会長、渡辺同窓会長



乾杯①・菅野二郎先生のご発声



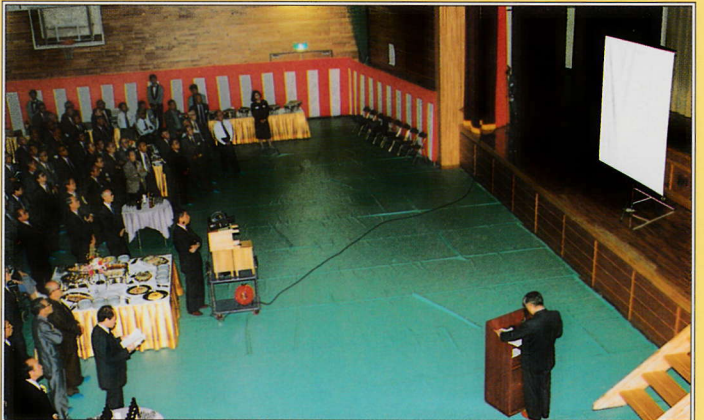
会場全景



開会のことば・司会榎本氏(左端)



お楽しみ抽選



「文京高校50年の変遷」スライド映写・解説 杉本安弘氏



模擬店





歓談・細木先生を囲んで



乾杯



歓談・中屋先生を囲んで



歓談・後藤前校長先生と



テーブルを囲んで



歓談







記念撮影



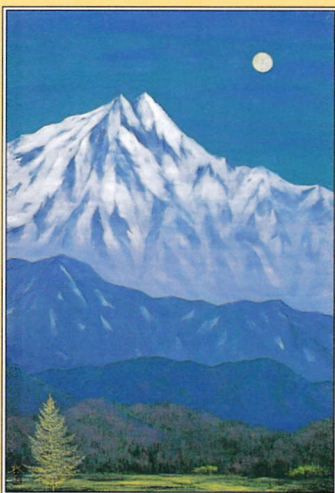
記念撮影(二期生)



万歳三唱・祝賀会世話人代表静谷晴夫氏



閉会のことば  
実行委員代表末正明氏



「岳」  
鶴田 熙(一期C組)



「ヴェネツィア」10号  
若林成佳(2期A組)



寄贈図書・写真集  
田草川太悟(7期C組)



寄贈図書・卒業生著書等

**卒業生寄贈品**

50周年記念寄贈品の絵画・図書

研究大好き学長 『学問は高級なホビーだ』

昭和二十年三月（旧制二期A組）卒業。

府立高等学校（現・都立大学）理科乙類、東京大学理学部へ進み、東京大学に助手として勤める。その後、カリフォルニア大学バークレー校へ研究留学の後、東京大学講師、岡山大学助教授・教授を経て、横浜市立大学教授へ。学部長の後、現在は横浜市立大学学長。

Q 三中生時代の思い出からお願ひします。

A 年に八回は試験がありましたね。そして先生がそれ程しごかなくても自分で勉強するという生徒が多かったですね。私もね、先生に言われるより、自分から勉強した方がおもしろかったから、宿題だけでおわりというのではなくて、自分で勉強していました。数学なんか二年のときは三年の問題、三年のときは四年の問題をやっていましたね。解くのものすごく時間がかかりましたが、なんとかやればできるものもあるんですよ。そうすると、授業での先生の話が実によくわかるんですよ。試験なんか、もつとやってくれというような気分で楽しかったです。それでも私はムラがありましたね。歴史や地理、漢文は苦手でした。漢文の宿題だけで一日つぶれて



しまうんですよ。もうめんどくさくて、おふくろにやってもらったこともありましたよ。とにかく昔はあまり楽しみがありませんからね。勉強が楽しみの一つになっていましたね。映画はいけない、喫茶店もいけない、ましてデートな

んかしたら退学ですよ。勉強は高級なホビーだったんですよ。

Q 私たちには耳の痛いお話です。

A とにかく、出来る子は、せっかくもって生まれた能力ですからひと足お先に勉強して、伸ばしてあげるといいんじゃないですかね。それも、先生が、先やれ、と言うのではなく、本人がその気になるというのが大事。どうやれば、その気にさせられるかが難しいんですけどね。研究室では、今自分のやっている研究が、いかにおもしろいか、そしてどういふふうに発展したらいいかというようなアイデアンス（補導）を「ああやれ」「こうやれ」と意識して言うのではなく与えてきました。何人か博士をとらして、教授になったのかもしれませんが、みんなをその気にさせるといふことをやってきたつもりなんです。その気にさせてしまうと強いですよ、生徒っていうのは。自分の好きな勉強でいいんですよ。先へ先へやっていきたいという意欲をかきたてて、文京生、がんばってほしいな。なにも進学ばかりが全てではありません。それならそれで、みんなが驚くほどのポロ儲けをするとか、悪いことじゃなくてね。人の考えもしなかったようなところで活躍したり、そういうような人が出てくれるといいですね。





Q 思い出に残る先生は、どんな方がいらっしゃいますか。

A 三中はね、ピンタ中学。なにかというピンタ。数学の先生で、恐い先生がいます。先生に指名されるともう上がっちゃって、解けないんですよ。そうすると、バーンとたたかれて益々できない。先生にさされないように神様に祈っているときに限ってあたるんですよ。そんな中で、担任の渡辺実先生は、よほどでないかぎりピンタはしなかったです。その頃の三中は、一年から卒業するまでクラス替えなしで担任の先生も最後まで一緒でしたから、先生と生徒の結びつきが非常に強かったですね。ですから卒業して十年たとうが十五年たとうがクラス会は、未だに続いています。それから、当時、は教練の先生といって、学校に配属将校が来ていましてね、この先

生も実にいい先生でした。でも戦犯に問われて死刑になってしまったんですよ。これは忘れられないですね。たぶん部下の責任を取ったんでしょう。だって、あの先生は、生徒をなぐらなかつたですよ。あと、結核で亡くなってしまったんですが、河野先生という国語の先生がいました。この先生の授業での教科書の解説は、目に見えるようでしたね。ほとんどの先生のことはよく憶えていますよ。でも何といっても担任の渡辺先生は四年間一緒でしたからね。しかも、戦争中ですから勤労働員で寝食共にしていました。とにかく、戦争まっただ中を過ごした四年間ですから、その間の出来事は忘れられません。ものすごく印象深いです。

Q 大学で助手をなさっていた時、アメリカへ留学されたとお聞きしましたが。

A 助手になってから、ドイツへ留学しようと思い、準備していたんですが、突然教授に呼ばれ、アメリカへ行けと言われたんです。「当分ドイツは経済が復興するまで時間がかかる。今はアメリカだ」と。それに、給料が今の十倍になるっていうんですよ。

五歳の娘とwifeと家族三人で横浜から船に乗って、十日かかって未知の世界へ上陸しました。あの頃のアメリカは、最も繁栄し、経済的、文化的に世界で抜きん出た立場にありました。皆さんは非常に寛大で親切で、敗戦国の若い人を何とか助けようという気持ちも強く、非常にいい時代でした。今は鍵を玄関に二つも三つもかけても心配という時代でしょ。我々が行った時は、アパートに鍵はいりません、どろぼうはしませんからという具合でした。日本で博士論文をとった研究がネズミを使った基礎医学的な研究だったので、アメリカへ行った時もネズミを使って、ホルモンと乳ガンの研究を

しました。研究は、やりたいだけやっても、研究費はあまるくらいですし、雑用が何もありません。東大にいた時は、ネズミの世話をして、学生の実習を見て、研究はその後ですよ。土曜も日曜も夏休みもなく、元旦も東大へ行って研究していましたから、月月火水木金金で実に十年以上やっていました。そこにいくと、アメリカは、ネズミの世話をしてくれる人はいまずし、研究室へ入ったらすぐ実験ができました。存分に研究ができ、七つの論文を書き、アメリカの雑誌に出しました。

Q 学長という立場から、今の高等教育についてどう思われますか。  
A 学長になってみて思ったのは、欧米の大学に比べると日本は、極めて能率が悪く、この急激に変化する世界に対応する高等教育の体制ではないということです。日本が、高等教育にかけるお金は、他の先進国に比べると少ないです。それに、今や、アメリカから基礎研究の結果がもらえなくなっちゃったんですよ。日本には基礎がないですから、借り物が多く、それを周知の事実として応用していました。ところが、もう借りる物が少なくなってきましたし、日本にあまり貸さなくなってきました。ある研究室では、日本人の研究者が来ると薬のラベルなんかは、ひっくり返して見せないようにしたり、なるべく日本からより他の国からの留学生を受け入れるようにしているといいます。先端科学技術で諸外国に負けないようにするためには、基礎研究は大事です。基礎研究を企業に任せると利潤がからみまますから、五十年たっても百年たっても役に立つ研究なんかしません。そういうものは大学でしかやらないんです。自分で発見して、応用していく、そして、基礎的な発見というのは、人類の財産として、アメリカにも、ヨーロッパにも、全部公開していくの

が大学なんですよ。

学長になる前に、とにかく大学院をと、総合理学研究科をつくりました。理科系は特に四年間で終わるのは中途半端だと思っんですよ。特に、語学に関して、今は英語などしゃべれる人はいませんが、書ける人は少ないです。昔は、予科三年と専門課程三年の六年間の大学教育でして、予科では、語学は毎日しごかれましたね。まあ、あと来年一年の任期ですけれど一生懸命やって、今度は、図書館をこわしまして、図書機能を含めた、総合情報センターというものを作ります。また、看護婦さんを養成する学校の先生を作るために、四年制の看護学部を作るだけでなく、大学院を作らなければならぬと考えています。

しかし、学長なんかやりたくないんですよ。研究の方がずっとおもしろい。時々、助教授の先生のところへ行って、新しいいろいろな話を聞いては、アドバイスをしているんですけど、それだけじゃどうもね。学者としては情けない話ですよ。口だけなんてね。やはり手が動かないとね。早く学長やめて、どっかの研究所へ行って、研究やりたいんですよ。



今回のインタビューは、一時間半にわたり、横浜市立大学の学長室でお話を伺いました。大変お忙しい中をご協力いただき、ありがとうございます。先生のお話から、自分から一生懸命取り組み、楽しさなんて自然にくっついてくるのだ、そんな気がしました。



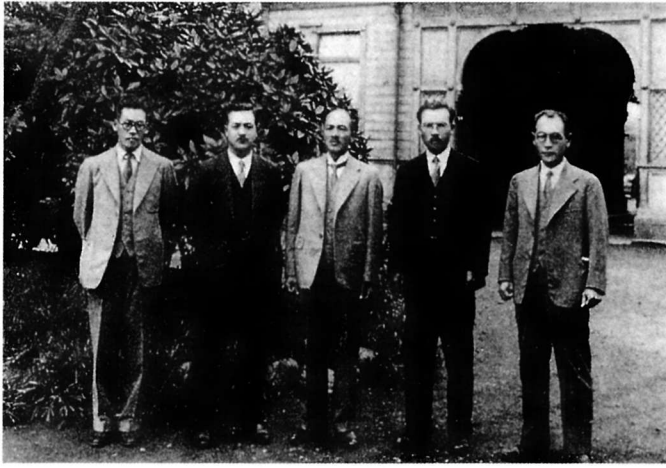
## 校風を築かれた五先生

末 正明

一期B組

昭和十五年四月、市立三中草創のため、当時の一中から川島源司校長（一中では教頭職）以下、奥園佐吉・奥田行信・河野孝光・川島計治の五先生が揃って転任されました。当時の市立一中は公立校でありながら、府立中学校と一線を画した、市立中学校独自の全人教育（知育に偏しない人間性重視の教育）を、教育施設の完備した校舎や、郊外施設で実践し、高い評価を得ておりました。余談ですが、私は兄が当時の市立一中に在学中であった関係で、五先生には兄弟でご薫陶を戴く光栄に浴しました。また私は時々兄に伴われて九段上の一中を訪ね、屋内プールで水泳を楽しみました。また市立一中の父兄参観日には、父に連れられて一中の郊外施設である千葉県興津の至大荘や、多摩川畔の尽性園を見学し、また夏休みの宿題などを通じ一中の全人教育の一端を知ることが出来ました。さて、この様に施設完備の市立一中から転任なされた五先生は、今もご健在の佐々木益男先生はじめ草創期の先生方と一緒に、養育院の老朽校舎で、全くの「ゼロ」から、学内施設や校風作りをスタートさせなければなりませんでした。しかし、五先生をはじめとする草創期の先生方は、「今にこの学校を日本一の学校にして見せる。」の意気込みで、小学校六年の課程を終えたばかりの私達新入生を、厳しく薫陶されました。五十年前を今振り返り、当時三十代・四十代の先生方が、それぞれの教科の授業や生活指導の面で卓越した知識と

率先垂範の教育実践を、私達一人一人に施して下さった事に、今もって驚きと感謝の念を禁じ得ません。一例を挙げますと、教科の面では河野孝光先生（国語）の持論として「教科書のことだけを教えているのでは、一円三十銭（当時の教科書の値段）の価値しかない教師だ。」とおっしゃり、私達にはつれづれに「豆腐の作り方・渡り鳥の話・日本刀の製造と鑑賞法等々」、博学な先生の熱意溢れるご授業振り（二期生本橋一浩君の川島源司伝ご寄稿文より）。また放課後の作業実習時には、担任の川島計治先生のご指導による樹木移植作業の段取りで、穴掘り、根切り・こもの巻き方など、作業すべてにわたり自信満々の実技指導。また雑草駆除に竹べら使用の方法のご説明と指導など、都会育ちの私達生徒にとってすべてが初体験のことばかりでした。また当時は軍事体制下で、課外の部活動は名目上「報国団活動」と呼ばれておりました。しかし当初は未だ軍事色の部活ではなく、市立一中の初代校長成田千里先生ゆずりの一流好みからか、私達三中でも立派な講師の方々をお頼みしての素晴らしい部活動教育が展開され、例えばお習字は、当時でも高名な鈴木翠軒先生、謡曲は観世流の四天王の一人浅見重信先生、詩吟は大和流宗家の福井銀城先生、またスポーツの面でも高砂部屋の佐渡嶽親方が当時序の口三段目の千寿錦を従えて見えたり、柔道では当時の学生選手権の覇者日大の角田主将が直接ご指導下さる等、絵画・陸上競技・剣道・銃剣術・ブラスバンドなどの各部もそれぞれに一流の指導者を揃えて大変な盛況でした。生徒の中には正規の授業よりもこの部活動に興味を持ち、目を輝かしていた者が多かったと思います（奥田行信先生追悼集の私の寄稿文より）。しかし市立三中の優雅な部活動も二年間程で廃止され、次第に厳しさを増した戦局と社会情勢下



に、ネクタイ背広の制服もカーキ色の戦時服に衣替えを強制され、全人教育も次第に軍事教練や銃剣術など軍事色の濃いものに変身し、三年生の頃から灰色の学園生活と勤勞奉仕、四年生から学徒動員令で軍需工場に工員として徴用され、勤勞動員の辛い生活を強制されてしまったことの痛恨の思いが今でも残っております。草創時、私達市立三中の師弟が一体で築き上げようとしていた校風も特色も、最後まで続けられた学校給食も食糧事情で廃止となり、校訓の至誠一貫が今残されている唯一の財産となりました。今当時を思うと、市立一中から来られた五先生は、市立三中で私達生徒に自らの理想とする全人教育を主体とした校風づくりに、情念を傾けられつつも、時運日増しに悪しく悉く実現を見ず、奥田行信先生を除

き無念の思いを残しつつも志なかばで転任・ご退職・ご逝去なされて母校を去られました。奥田行信先生は最後まで踏みとどまられ、巢鴨校舎全焼後の本郷元町小学校の仮校舎時代も、第三代校長として孤軍奮闘努力され、自らを至誠一貫の権化として苦難の道を切り開き、学校発祥の地豊島区西巢鴨に全校舎を回帰されるなど今日の文京高校発展の礎を築かれました。今日豊島区にありながら、文京の校

名が残されていることは、奥田行信先生の起死回生のご尽力ぶりが如実に語られていると思います。私は文京五十周年記念誌に奥田先生のご功績を特筆大書して顕彰すべきだと考えます。

戦後のマッカーサー指令による我が国の教育制度六・三・三・四制の弊害は、単に高校の三年間を中学と大学を結ぶ一通過地点として位置付けてしまっており、日本の教育に多くの問題を起こしつつあります。そしてこの高校教育に最も失われているものに人間教育があります。私は嘗て私達が市立三中草創期に施された全人教育即ち、知識のみに偏しない、自然に親しみ、あらゆる芸術文化を享受吸収できる教育の場、即ち国の将来を担う常識豊かな若き都民育成の場としての都立高校教育が施されることを望みます。創立五十二年を経て母校文京高校が理想的な校舎とキャンパスを持つハイスクールとして誕生したことは、私達から見ても隔世の感があり、心から祝福の辞を述べると共に、文京草創期の諸先生が夢とした舞台作りが完成した現在、教育内容の面で今後の文京高校が、嘗ての五先生を軸とし草創期の先生方の目指した全人教育の場として活用されることを望みます。近い将来文部省では、土曜日を休日とする教育方針を実施する予定との事です。さて私達創立初期生は現在それぞれ還暦を過ぎ、後進に道を譲り余生を楽しんでいる方も数多くなくなりました。これらOBの諸氏が、母校文京で後進のために土曜日の一日を自らの特技で指導と助力を傾けられるシステム作りを同窓会が早急に検討して築き、この事の実現により創立初期の諸先生の方々に対する報恩の校風作りをしたい、と願う昨今の私の心情です。(市立一中初代校長成田千里氏伝も参照させて頂きました。)



川島源司校長先生初代

毎週一時間、校訓至誠一貫を熱心に説かれる。裸体操にも率先垂範、先頭で走られた。昭15年 第三東京市立中学校長。昭20年6月退職。高知大講師。昭27年 高知(城東)学園経営。昭57年2月25日 逝去。91歳。



野口彰校長先生 二代

品行端正、学力優等と師範在学中から誰にも認められる。本校退職後、愛宕中学校長兼、全国中学校長会会長として活躍。生徒の作った食事を温い眼差しで食する優しさ。昭20年豊島中学校長。22年退職。



奥田行信校長先生三代

皆から神様と言われる程、私心のない方。役所が図書室で会合をと申込まれても生徒が使うからとお断りする。会議では、必ず自分の考えを隠せず述べられ和氣藹藹。



阿部乾六校長先生七代

和歌を嗜まれ、また大校長と人々から尊敬を受けられる。学園紛争では格段の苦勞をされる。退職後は飛鳥で遺跡の発掘に携われ、訪れた生徒ともども暖かくご案内を頂く。昭46年 退職。



石田弘正校長先生八代

斗酒なお辞せず、こよなくお酒が好きで、教育長が突然訪れた時、やあやあと勧めたエピソード。よき時代でした。昭46年東京都立文京高校長。昭49年 退職。



萩島郁太郎校長先生 九代

まことに温厚そのもの、穏やかな人柄で、話し込んでいくうちにこちらのいきり立つた気持もゆったり落ち着いてくる話芸はどこからか。その笑顔は天下一品。



後藤秀雄校長先生十三代

体つきからすれば、どこなく洒々とした語り口に誠実さがにじみ出てくる。旧と新、二つの校長室の居心地は果たしてどちらの方がよかったか。平成4年 退職。



糸太郎校長先生 十四代

二枚目でもあり、周年行事も経験しておられ、大変親切の良い、行動力のある校長さんです。木目細かく配慮はなさるが、直ぐやる課の対応が取れない時代が残念です。

山川喜久男先生  
略歴  
大正 八年 青森市大町に生まれる  
昭十五年 東京外国語学校英語部文科卒  
昭十七年 第三東京市立中学校教諭  
昭二十年 青森県立青森中学校教諭  
昭二二年 東海科学専門学校助教授  
昭三九年 一橋大学教授  
昭五七年 一橋大学名誉教授  
福岡大学大学院教授  
平成元年～ 福岡大学大学院非常勤講師  
叙勲  
平成四年十一月 勲三等旭日中綬章  
ご研究ご著書等  
著書 『句と節』『主題と陳述』研究社他  
共編 『新英和大辞典』研究社  
『現代英語学辞典』成美堂他  
論文 英語の史的統語法に関し多数



稲崎脩平校長先生 四代

大変穏やかな端正な方であった。増改築での南門案に反対して運動場の二分を避け、校門をV字型に引きさげて解決、石垣の上に植込みなど、風格・開放感ほ先生のお陰。  
昭和37年 都立文京高校長。  
昭和30・37年 都立文京高校長。



山田孝校長先生 五代

豪放磊落、武勇に富みそのな先生であった。映画美女と野獣に事寄せて奥様の美しさを皆から祝福されていた。  
昭和8年 佐倉中学教諭。  
昭和14年 大多喜中学教諭。  
昭和17年 東京都立豊多摩中学教諭。  
昭和28年 東京都立豊多摩高校長。  
昭和30年 東京都立足立高校長。  
昭和37年 東京都立文京高校長。  
昭和38年 6月16日 逝去。



丸岡真幸校長先生 六代

放送設備の完成を見、学校全体が明るく生き生きとしてくる。緑多かれと25周年記念植樹。23年の空白を埋める校歌制定。素晴らしい業績。退職後長期のアマゾンでの魚釣り。  
昭和43年 退職。



森章校長先生 十代

こまやかなところにお口を出すことなく部下に一切をまかせ。寡黙にしてやる気を起こさせる風格は天性のものであろう。茫洋とした風貌とは裏腹に決断が光る。  
昭和57年 退職。昭62・8・23逝去。



古瀬敦校長先生 十一代

一言でいえば、率直といふに尽きる。酒席でなくてもすばり辛口で切り込まれるが、後くされは残らない。校長になつて暮が思うように打てなくなったのが唯一の誤算。  
昭和23年 私立聖学院高等学校講師。  
昭和25年 都立広尾高校教諭。  
昭和34年 都立北高校教諭。  
昭和47年 都立豊島高校教頭。  
昭和54年 都立足立高校長。  
昭和57年 都立文京高校長。  
昭和60年 退職。



紺野嘉夫校長先生 十二代

合理的なものごとを捉えねば気が済まないのはその専門とする科目の故か。話の節々に回路の明晰さが聞きとれる。文京の校歌をうたわせればこれまた絶品。  
昭和3年 福島県福島市栄町出生。  
昭和22年 安積中卒。岩根小助教諭。  
昭和27年 東京高師理科二部物理卒。  
昭和28年 福島高等学校教諭。  
昭和28年 都立深川高校教諭。  
昭和34年 都立大崎高校教諭。  
昭和40年 都立小松川高校教諭。  
昭和52年 都立江北高校教頭。  
昭和57年 都立足立高校長。  
昭和60年 文京高校長。平成元年退職。

平成4年 教職員異動

退職	後藤 藤雄校長先生	中央図書館へ
	福本 良一 先生	国語
	磯山 静一 先生	英語 大森高校へ
転勤	横 學 教頭先生	神津高校校長へ
	椿 光弘 先生	数学 青山高校へ
	小林 省三 先生	物理 大泉北高校へ
	藤田 昭彦 先生	英語 青山高校へ
	小島 房枝 先生	主事 竹早高校へ
	清水 あい子 先生	主事 新宿高校へ
着任	糸 太郎校長先生	武蔵丘高校より
	奥野 勉教頭先生	石神井高校より
	黒沢 正信 先生	数学 板橋高校より
	白石 正浩 先生	英語 大泉北高校より
	二瓶 敬子 先生	主事 小石川工業高校より
	山崎 達一郎先生	物理 豊島高校より
	木内 美智子先生	英語 芝商業高校より

菅野二郎先生

略歴  
 大正 七年 福島県東和町太田に生まれる  
 昭和十六年 法政大学高等師範部歴史地理科卒  
 昭和二十年 東京都立豊島中学校教諭  
 昭和三九年 東京都足立区立一中学校校長  
 昭和四二年 東京都豊島区立中学校長  
 昭和四五年 荒川区教育委員会教育長  
 昭和五六年 法政大学講師等  
 文部省教科書編集委員始め  
 全国都市教育長協議会理事等歴任  
 叙勲  
 平成四年五月 勲五等双光旭日章授与

ご研究ご著書等  
 日本史を通して歴史教育の研究に従事  
 研究論文 教科書 標準日本の歴史 他  
 日本の歴史 他著作多数 招聘講演多数

消 息

式典のとき参加者より二先生が叙勲されたとの知らせがありました。お二方の略歴を作成し掲載します。



# 文化祭

食物連鎖92 — 自然の基本 —  
92年9月26日〜27日



トラック

「本校では昭和63年より校舎の改築工事が始まりました。そして、その仕上げとも言うべき第3期工事として、今年6月より校庭の改修工事が開始されました。しかし、その工法は既存の植生をほぼ切り倒し、新たな木を植えなおすというものでした。」〈文化祭展示コーナー 3B 齋藤武君の力作 抜粋〉



年輪



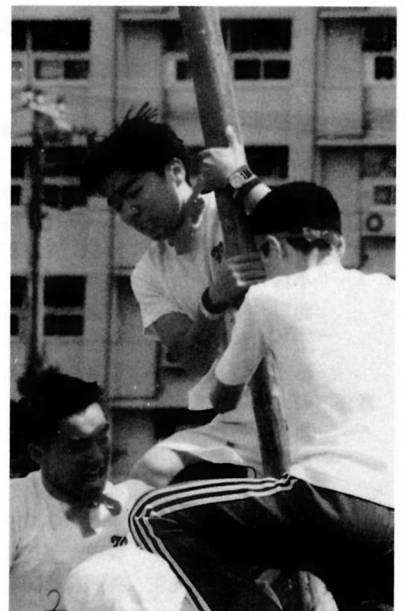
集団演技②



フォークダンス



騎馬戦



棒倒し





音楽会



パン食い競争



集団演技①



トラック競技

# 体育祭

北区北運動公園  
92年9月22日

# 記念講演 『感動の種をまきつづけよう』

3期B組 末 利 光

フリージャーナリスト



きょうここに母校の創立50周年というおめでたい場所に列席させていただき、卒業生を代表して講演できますことは私の一生の光栄であります。

こうした場合、在校生のみなさんはきつと有名な人が現われるであろうと心ひそかに期待されていたに違いありません。しかし残念ながら私、末利光はちつとも有名でないばかりか、高校時代の成績も大したものではありませんでした。

文京区本郷元町の仮住いの校舎は、これが高校かと思われる位の薄汚いものでした。戦争で母校を焼かれて焼け残った小学校での勉強だったのです。文京高校時代の思い出は、私が美術クラブに所属して学園祭で一番大きな絵を出展したことです。一〇〇号近い大作でポスターカラーを使って仕上げた風景画でした。

実はそれに先だつて私は島崎藤村の小説『破戒』を読んで急に小説の舞台を訪ねたくなり、同級生二人と信濃めぐりに出掛けました。小諸の「懐古園」に着いた時はもう夕陽が山々の頂を赤く染めていました。いまと違って食べ物もない時代でしたから、近くの小さな店で冷たい菓子パンの様なものを食べた記憶があります。

「小諸なる古城のほとり 雲白く遊子悲しむ」の碑の前に立つと、つくづくと平和のありがたみを感じられました。こんな呑気な旅ができる時代が来ようとは思ってもみなかったからです。その時の「懐古園」から千曲川をはさんだ前山の風景を模写して引きのばしたのが、先程の文化祭に出展した私の作品だったという訳です。

この絵は人気がありました。会う人毎にほめてくれました。疎開先から帰ったばかりで普通課目の成績がおそろしく悪い私は、この絵で初めて自信を持てたのです。そこで私は美術学校に行こうかと考えました。そして学校に通いながら阿佐ヶ谷の画家のアトリエへ通いました。しかしそこで見たものは、あの頃の画家の貧しすぎる生活でした。私たちがデッサンをしている隣の部屋で奥さんをモデルに先生が裸婦を描いているのです。モデルを雇うお金がないのです。しかも食パンの中味はデッサンの消しゴムに使ってしまい、外側の硬い処をお二人で分け合ってたべているのです。私はそれを見て絵の道に進むのがいやになったのです。

そうそう。忘れていたことがもう一つあります。文京高校の同級生と二人で小諸の「懐古園」に行き藤村の碑の前に立った時、一人の坊さんが向うむきに座禅を組んでいました。私たちが近付くと坊さんはくりりと振り返って「どこから来たのか」と訪ねました。私たちが東京の高校生で藤村に憧れてやってきたことを告げますと、坊さんは大いに喜んで、「いまは秋で草がないから」といって、用意したコップの中から一枚の葉を取り出して下唇に当て「小諸なる……」と聞かせてくれたのです。千曲川の川音が草笛に和し、冷たい風があたりの紅葉を散らし、それは涙の出るほどの感動でした。そしてお坊さんは、お金をとろうとはしませんでした。どこからやって来たのかわらないこのお坊さんは、ここに住みついてしまったということでした。ことほど左様に、貧しくても絵を描き、乞食のような生活しても文学の感動にひたろうとする。長いながい戦争の後には、いままで味わえなかった芸術や文化の感動にむさぼり付こうとする人たちの姿が、あの頃はあちこちにみられました。

そういえば私の友人の牧師がこんなことを言っていました。日本では昭和2年生まれの牧師が一番多いんだということです。なぜかというとは彼らは敗戦の時は18才。ある者は特攻隊として死んでいった筈です。それが8月15日を境に今度は侵略戦争に加担した人間だということになり急に世の中がわからなくなったのです。多感な18才の精神が神に救いを求めた結果だと、その牧師はいうのです。この世代は丁度、本校の一期生のみなさんの世代です。

特攻隊というと、なぜか私は古いニュース映画の中で、お人形を背負い、軍刀のつかには紅白の水ひきを結んでいった姿を思い出します。実に子どもらしい仕種です。特攻隊の生き残りの方の話では、お人形はなぜか女の子の形だそうで、これはお母さんや姉や妹たちのつもりなんだということです。お国のためというよりも、むしろ母や姉や妹たちを守るんだといって死んでいったといえます。特攻隊の年令は16・17・18・19・20才と、丁度みなさんの年代です。

さて昭和26年、私はどうやらこの学校を卒業し、人並に浪人して早稲田大学文学部ドイツ文学科に籍を置きました。大学時代の私はひとつの試みをしていました。それは自分の好きな文学作品をまる写しにするのです。そしてそれを何度も読んで、英語の構文を覚えるように暗記してしまうのです。後に新田次郎氏にお目にかかった時、偶然同じことをしたと話されて、二人で笑ってしまいました。みなさんも是非試してみてください。表現力がたちまち養えること請け合いです。英語や歴史年表ばかりが暗記ではありません。

私が大学を卒業した昭和30年代前半は大変な就職難でした。たった13人のNHKアナウンサーの募集に数千人が応募したのです。私が高んとかこの激戦をくぐり抜けられたのは、大学時代に好きで始

めた文学作品のまる写しで私に表現能力が養われていたからだと思います。人間好きなことに熱中し、やる気さえ失わなければ必ず仕事は向こうからやってくる。焦るな。これが私の人生哲学です。

いま私は甲府盆地の風土病「日本住血吸虫」の研究をしています。出身地の東京を希望しないでここに住みついたのは、これをライフワークにしたからです。この病気は日本では新しい患者はなくなりしましたが、フィリピンや中国ではいままなお凄惨を極めていきます。レイテ島では小学生の1/3がこの病気で卒業が出来ず、多くの人たちが命をおとしている実態を見ました。私はそこで働く日本人医師林正高氏とはかって、かつてこの病気で苦しんだ山梨県民がフィリピン患者一人分の特効薬代金7000円を贈る募金活動をはじめました。この運動は僅か四年半で6千万円余りが集まり、少なく見積っても7万6千のフィリピン人の命を救ったといわれています。二度目の私の比島ゆきにはマラカニアン宮殿に招よばれ、アキノ大統領の官房長官から山梨県民にあてたお礼のメッセージを託されました。私の小さな研究がこんな大きな仕事に結び付いたのです。

昨年四月の統一地方選挙で私は市民団体の人たちに推されて甲府市長選挙に立候補して敗れました。すさまじい金権選挙の山梨県で私は自分の退職金だけで闘いました。こんな世の中はおかしいと思つたからです。そのことは『クリーン選挙・わたしの闘い』（講談社）に全てを書きました。どうです。全てが私の予言通りになったではありませんか。『人生が感動の連続だとしたら、こんな素晴らしい人生はないと思う。それには次から次へと感動の種をまきつづけることだ』と思う。感動の種をまかずして夢のある人生の扉はひらかれない。『若いみなさんに私はこの言葉を贈りたい。』

卒業生進路状況 平成4年4月現在

(2) 私立大学 (4年)

就職

就職 30名
(1)国家公務員等 男子 4 女子 7 計11名 郵政省、東京都、豊島区 他
(2)企業等 男子 7 女子 12 計19名 資生堂東京販売㈱、コスモ石油㈱ 他

進学 ( )内数字は推薦合格者数 ○付数字は二部合格者数

	現 役	浪 人	合 計
(1) 4年制 計	98	169	267
(2) 2年制 計	102	9	111
(3) 専門学校 計	127	7	134
合 計	327	185	512

(1) 国公立大学 (4年)

大学名	現 役	浪 人	合 計
埼玉大	1	3	4
電気通信大		1	1
東京水産大		1	1
琉球大	1		1
職業訓練大		1	1
合 計	2	6	8

(3) 短期大学 (2年)

大学名	現 役	浪 人	合 計
淑徳短期大学	10		10
跡見学園短期大学	6 (1)		6 (1)
十文字学園女子短期大学	6 (1)		6 (1)
川村短期大学	5 (2)		5 (2)
目白学園女子短期大学	5 (2)		5 (2)
城西大学女子短期大学部	4 (1)		4 (1)
東洋大学短期大学	4		4
女子聖学院短期大学	3 (1)		3 (1)
東京家政大学短期大学部	3 (1)		3 (1)
川口短期大学	3		3
東洋女子短期大学	2 (1)	1	3 (1)
戸板女子短期大学	2	1	3
東京農業大学短期大学部	2	1	3
浦和短期大学	2 (1)		2 (1)
帝京短期大学	2 (1)		2 (1)
大妻女子大学短期大学部	2		2
国際短期大学	2		2
国土館短期大学	2		2
鶴見大学女子短期大学部	2		2
東京立正女子短期大学	2		2
富士短期大学	2		2
文教大学女子短期大学部	2		2
文化女子大学短期大学部	1	1	2
文京女子短期大学	1	1	2
文理情報短期大学	1	1	2
産能短期大学	1 (1)		1 (1)
白梅学園短期大学	1 (1)		1 (1)
帝京平成短期大学	1 (1)		1 (1)
日本経済短期大学	1 (1)		1 (1)
東京都立川短期大学	1		1
青山学院女子短期大学	1		1
秋草学園短期大学	1		1
明の星女子短期大学	1		1
共立女子短期大学	1		1
駒沢短期大学	1		1
尚美学園短期大学	1		1
昭和女子大学短期大学部	1		1
聖徳栄養短期大学	1		1
星美学園短期大学	1		1
創価女子短期大学	1		1
調布学園女子短期大学	1		1
帝京女子短期大学	1		1
東京家政学院短期大学	1		1
東京経営短期大学	1		1
東京工芸大学短期大学部	1		1
東京女子体育短期大学	1		1
東京成徳短期大学	1		1
東京都立川短期大学	1		1
日本女子体育短期大学	1		1
日本橋女学館短期大学	1		1
山村女子短期大学	1		1
成城短期大学		1	1
千葉経済短期大学		1	1
武蔵野美術大学短期大学部		1	1
合 計	102 (16)	9	111 (16)

大学名	現 役	浪 人	合 計
日本大学	5 (2)	15 ①	20 (2)①
東京電機大学		14	14
法政大学	2 (2)	11 ⑤	13 (2)⑤
東洋大学	2 ①	10 ③	12 ④
東海大学	8 (5)①	2	10 (5)①
城西大学	6 (3)	3	9 (3)
明星大学	3 (1)	6	9 (1)
帝京大学	8 (3)		8 (3)
大東文化大学		7	7
中央大学	3 (2)①	3	6 (2)①
明治大学	1	5	6
早稲田大学	1	4	5
拓殖大学	1	4	5
湘南工科大学		5	5
東京国際大学	4 (2)	1	5 (2)
東京情報大学	2	1	3
東京農業大学		3	3
東京理科大学	3 (2)③	1	4 (2)③
国土館大学	2 ①	2	4 ①
千葉工業大学		4 ①	4 ①
獨協大学	3 (2)	1	4 (2)
千葉商科大学	2 (1)	2	4 (1)
専修大学	1	3	4
立正大学	2 (1)	1	3 (1)
杏林大学	2	1	3
北里大学	1	2	3
工学院大学		3 ①	3 ①
足利工業大学		3	3
立命館大学		3	3
江戸川大学	2 (2)		2 (2)
亜細亜大学	2		2
聖学院大学	2		2
産能大学	2		2
明海大学	2		2
日本体育大学	2		2
日本獣医畜産大学	1 (1)	1	2 (1)
淑徳大学	1	1	2
昭和大学	1	1	2
東京経済大学	1	1	2
麗澤大学	1	1	2
青山学院大学	2	①	2 ①
國學院大学	2		2
中央学院大学	2		2
神奈川工科大学	2		2
明治学院大学	2		2
大正大学	2		2
関東学院大学	2		2
日本福祉大学	1 ①		1 ①
大阪芸術大学	1 (1)		1 (1)
白百合女子大学	1 (1)		1 (1)
上智大学	1 (1)		1 (1)
成蹊大学	1 (1)		1 (1)
二松学舎大学	1 (1)		1 (1)
神田外語大学	1		1
九州東海大学	1		1
横浜商科大学	1		1
和光大学	1		1
国際武道大学	1		1
相模女子大学	1		1
創価大学	1		1
天理大学	1		1
東邦音楽大学	1		1
日本女子体育大学	1		1
武蔵大学		1 (1)	1 (1)
北海道東海大学		1	1
八戸工業大学		1	1
東北学院大学		1	1
駒沢大学		1	1
埼玉工業大学		1	1
高千穂商科大学		1	1
桐蔭学院横浜大学		1	1
玉川大学		1	1
第一工業大学		1	1
帝京技科化学大学		1	1
駿河台大学		1	1
洗足学園大学		1	1
白鷗大学		1	1
東京工科大学		1	1
東京工芸大学		1	1
東京家政大学		1	1
東京家政学院大学		1	1
文京女子大学		1	1
京都精華大学		1	1
共立薬科大学		1	1
昭和薬科大学		1	1
星薬科大学		1	1
明治薬科大学		1	1
T.I.U.ユーリカ大	1 (1)		1 (1)
合 計	96 (35)⑧	163 (1)②	259 (36)②⑨

卒業生数

期	年月	男子	女子	合計
一	昭和20年 3月	217		217
二		259		259
三	21 5	66		66
三	22 3	133		133
四	23 3	60		60
1	24 3	55		55
2	25 3	170		170
3	26 3	245		245
4	27 3	299		299
5	28 3	237	68	305
6	29 3	222	93	315
7	30 3	218	88	306
8	31 3	214	92	306
9	32 3	209	95	304
10	33 3	206	92	298
11	34 3	226	93	319
12	35 3	215	92	307
13	36 3	213	105	318
14	37 3	238	120	358
15	38 3	257	141	398
16	39 3	252	147	399
17	40 3	268	157	425
18	41 3	304	212	516
19	42 3	282	183	465
20	43 3	273	181	454
21	44 3	274	178	452
22	45 3	263	175	438
23	46 3	259	173	432
24	47 3	242	171	413
25	48 3	212	214	426
26	49 3	203	213	416
27	50 3	183	225	408
28	51 3	194	214	408
29	52 3	203	203	406
30	53 3	186	221	407
31	54 3	194	211	405
32	55 3	195	206	401
33	56 3	194	212	406
34	57 3	185	217	402
35	58 3	202	219	421
36	59 3	223	232	455
37	60 3	177	218	395
38	61 3	201	220	421
39	62 3	237	242	479
40	63 3	216	216	432
41	平成元年 3月	205	221	426
42	2 3	206	218	424
43	3 3	215	214	429
44	4 3	213	222	435
	合計	10,420	7,014	17,434

同窓会・連絡 (平成4年12月)

◎ 平成5年度より新同窓会長として、元会長の静谷晴夫氏(四B)が内定しております。

◎ 母校では、平成5年度より文京出身の教職員は渡部曜先生(23H)お一人となります。

先生は千葉大学教育学部、東京学芸大学大学院で理科教育を修め、母校で物理を教えておられます。

文京高校赴任前から同窓会の副会長を三期お願いし、昭和60年からは書記をお願いしております。授業のほか物理教室、視聴覚教室の管理、運営、さらに吹奏楽部の顧問として指導にあたっておられます。

バイタリティーあふれる若きスーパーマンで、今後、同窓会としては益々、先生を頼りにすることが増えると思われま。あらためてここにご紹介致します。

◎ クラス委員は同封のハガキを必ずご返送下さい。



同窓会委員 平成4年5月

(4) 専門学校・各種学校

学校名	現役	浪人	合計
東京国際情報ビジネス専門学校	11 (7)		11 (7)
東京商科学院専門学校	6		6
東京情報ビジネス専門学校	3		3
東京スクール・オブ・ビジネス	2 (1)		2 (1)
専門学校日本スクール・オブ・ビジネス	2		2
専門学校東京・ソフィア・ビジネス・カレッジ	2		2
津田スクール・オブ・ビジネス	1 (1)		1 (1)
東京ビジネスカレッジ	1 (1)		1 (1)
お茶の水ビジネス専門学校	1		1
日本情報ビジネス専門学校	1		1
東京情報専門学校	1		1
文教大経営情報専門学校	1		1
東京法科大学校	2		2
東京会計法律専門学校	1 (1)	1 (1)	2
東京会計専門学校	1		1
東京簿記情報ビジネス専門学校	2 (2)		2 (2)
村田簿記学校	1		1
大原簿記学校	1		1
共立医療秘書専門学校	1 (1)		1 (1)
日本ビジネス法学院	1 (1)		1 (1)
早稲田速記学校	1 (1)		1 (1)
早稲田速記秘書専門学校	1		1
トラベルジャーナル旅行専門学校	3		3
東京エアトラベル専門学校	2 (1)		2 (1)
東京観光専門学校	2		2
専門学校国際観光文化学院	1		1
東京YMCA国際ホテル専門学校	2		2
専門学校日本ホテルスクール	1 (1)		1 (1)
専門学校お茶の水外語学院	1		1
神田外語学院	3 (1)		3
日本外国語専門学校	2 (1)		2 (1)
東京外語専門学校	1		1
広島外語専門学校	1		1
日本ジャーナリスト専門学校	1 (1)		1 (1)
お茶の水美術専門学校	1 (1)		1 (1)
専門学校アーバン・デザイン・カレッジ	1		1
千代田工科芸術	1		1
東京コミュニケーションアート専門学校	1		1
日本デザイン専門学校	1		1
健康科学専門学校	1 (1)		1 (1)
田中千代服飾専門学校	1 (1)		1 (1)
杉野学園(ドレスメーカー学院)	1		1
東京服飾専門学校	1		1
文化学院専門	1		1
文化服装学院	1		1
江上料理学院	1		1
太田調理士専門学校	1		1
辻学園(辻クッキング)	1		1
東京科学電子工業専門学校	4 (2)		4 (2)
東京工業専門学校	3	1	4
工学院大学専門学校	1 (1)	2	3 (1)
東京電子専門学校	3		3
日本電子専門学校	2	1	3
朝日コンピュータスクール東京校	2	2	4
日本工学院専門学校	1	1	2
英進情報処理専門学校	1	1	2
科学技術学院専門学校		1	1
関東電子学院専門学校	1		1
早稲田電子専門学校	1		1
東京コンピューター専門学校	1		1
東京製図学校	3 (2)		3 (2)
東京動物専門学校	1		1
日本動物専門学校	1		1
東急自動車整備専門学校	1		1
東京都立大田職業訓練校	1		1
東京都立豊島看護専門学校	3 (1)		3 (1)
杏林大学医学部付属看護専門学校	2 (1)		2
国立王子病院付属看護専門学校	2		2
東京医科大学看護専門学校	1 (1)		1 (1)
俊成看護専門学校	1		1
関東労災看護専門学校	1		1
国立埼玉病院付属看護専門学校	1		1
国立病院医療センター附属看護専門学校	1		1
川口市民病院付属高等看護専門学校	1		1
東京都立板橋看護専門学校	1		1
東京厚生年金看護専門学校	1		1
帝京大学福祉保育専門学校		1	1
帝京医学技術専門学校	2 (1)		2 (1)
城西放射線技術専門学校	1		1
愛蘭技士専門学校	1 (1)		1 (1)
日本医薬専門学校	1 (1)		1 (1)
日本歯科大学付属歯科専門学校	1		1
日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校	1		1
小計	127 (35)	7	134 (35)



<p>日本スピンドル製造株式会社 社長 一.B 今泉 徹 本社 〒661 尼崎市湖江4-2-30 Tel.06-499-5551 〒541 大阪市中央区備後町2-5-8 綿業会館 Tel.06-203-4801</p>	<p>秋葉原運輸株式会社 代表取締役 一.B 若林 義朗 〒104 東京都千代田区神田佐久間町1-8 ニュー千代田ビル602 Tel.03-3261-7513 Fax.03-3251-8036 鳥越ターミナル倉庫・渋谷営業所・多摩営業所</p>	<p>弁護士 二.D 原田 策司 事務所 〒104 東京都中央区銀座7-5-4 毛利ビル4F Tel.03-3571-1780 自宅 〒145 東京都大田区上池台3-30-1</p>
<p>有限会社 白金グレース 代表取締役 四.C 今泉 勝彦 〒108 東京都港区白金2-7-23 Tel.03-3446-7520</p>	<p>示現会会員 (洋画) 2.A 若林 成佳 〒104 東京都千代田区神田佐久間町1-8 ニュー千代田ビル608 Tel. .03-3255-5973</p>	<p>小室産婦人科医院 院長 三.E 小室 陽一 〒114 東京都北区岸町1-12-22 病院Tel.03-3907-0303 自宅Tel.03-3907-0280</p>
<p>株式会社 八 洲 代表取締役 一.B 川上 光男 〒114 東京都北区本町2-11-6 会社Tel.03-3909-3211 自宅Tel.03-3815-2839</p>	<p>友の屋マーケットモタイ酒店・釣堀レストラン「友の井」 もたい 一.C 壘 卯之吉 〒178 東京都練馬区南大泉3-29-19 Tel.03-3922-2484(自) 友の屋マーケットモタイ酒店 Tel.03-3924-3031(商) 釣堀レストラン「友の井」 Tel.0429-7-0559(飯能)</p>	<p>河合楽器株式会社 取締役 三.E 柴田 哲夫 自宅〒153 東京都目黒区中町1-7-1 Tel.03-3719-0520</p>
<p>株式会社 栗原製作所 (各種フィスプレー企画製造) 代表取締役 一.B 栗原 正昭 〒111 東京都台東区元浅草4-5-5 Tel.03-3841-2515 Fax.03-3845-4104</p>	<p>株式会社 池谷製作所 (メガネレンズ製造・卸売) 社長 一.C 池谷 利一 専務 2.D 池谷 三郎 〒169 東京都新宿区大久保2-13-1 Tel.03-3209-8631</p>	<p>静谷クリニック (内科) 四.B 静谷 晴夫 〒170 東京都豊島区西巣鴨4-6-2 病院Tel.03-3910-1136 自宅Tel.03-3910-1219</p>
<p>株式会社 末商会 (出光ガソリン・貸ビル・自動車販売整備) 専務取締役 一.B 末 正明 (市三会会長) 本社 〒112 東京都文京区後楽2-6-1 Tel.03-3811-0755 Fax.03-3815-7818 飯田橋Tel.03-3269-0257 神保町Tel.03-3261-5111</p>	<p>医療法人 社団湖聖会 理事長 二.A 湖山 聖道 銀座病院Tel.03-3541-1151 銀座健康管理センターTel.03-3541-3340 湖山病院(特例許可177床) 〒416 静岡県富士市大淵405-25 Tel.0545-36-2000</p>	<p>静谷歯科医院 (歯科一般) 4.D 静谷 栄夫 (午前)〒170 豊島区駒込3-11-3 Tel.03-3915-1108 (午後)〒170 豊島区西巣鴨3-8-15 Tel.03-3915-0072</p>
<p>フリー ジャーナリスト (元NHKチーフアナウンサー) 各大学・企業・経営研究所 講師 3.B 末 利光 (講師 芸名・神田甲陽) 事務所 〒400 甲府市富士見1-17-12 Tel.0552-53-8772 Fax.0552-53-8722 東京事務所 〒112 東京都文京区後楽2-6-1 末ビル内</p>	<p>二.A 樋口 良雄 〒112 東京都文京区仙石1-24-11 Tel.03-3942-0450</p>	<p>一ツ橋印刷株式会社 代表取締役 四.C 菊池 達長 自宅〒237 横須賀市湘南鷹取6-21-10 Tel.0468-66-1493</p>
<p>社団法人 日本吟道学院 総裁 一.A 渡辺 吟神 〒113 東京都文京区西片2-12-23 Tel.03-5684-0124</p>		<p>弁護士 一.A 渡辺 剛彰 〒113 東京都文京区西片2-12-23 Tel.03-3811-2989</p>

<p>東京都北区議会議員待遇者 医療法人赤羽病院理事長 税理士(王子税理士会顧問)</p> <p>四.E はいばら富士雄</p> <p>〒116 東京都北区志茂1-17-13 Tel.03-3901-8554</p>	<p>丸山歯科医院 歯科医師</p> <p>8.B 丸山 記久麿</p> <p>〒113 東京都文京区本駒込5-44-2 病院・自宅Tel.03-3825-2294</p>	<p>星野家具店</p> <p>19.E 星野 久男</p> <p>20.E 星野 豊美 (旧姓・太田)</p> <p>〒173 東京都板橋区仲宿40-4 Tel.03-3961-9567</p>
<p>ライセンス保険事務所</p> <p>I.AB 原 巍</p> <p>〒240 横浜市保土ヶ谷区仏向町874-4-11-101 自宅Tel.045-332-0673 会社Tel.045-312-5024</p>	<p>津田沼病院 院長</p> <p>8.D 梶本 伸一</p> <p>〒275 千葉県習志野市津田沼1-18-45 Tel.0474-79-2611 Fax.0474-79-2674</p>	<p>加藤友和建築設計室 一級建築士</p> <p>19.I 加藤 友和</p> <p>〒115 東京都北区赤羽2-56-10 Tel.03-3903-4710 自〒351朝霞市朝志ヶ丘4-10-13-409 Tel.048-474-2085</p>
<p>株式会社 サトウケミカル 医薬部外品製造販売／化粧品製造販売</p> <p>4.C 佐藤 佳男</p> <p>〒352 新座市野火止8-16-7 会社Tel.048-481-2323 自宅048-474-8456</p>	<p>富士写真フイルム株式会社 プロフェッショナル写真部課長</p> <p>12.C 杉本 安弘</p> <p>勤務先 〒106 東京都港区西麻布2-26-30 Tel.03-3406-2068 Fax.03-3406-2140 自〒174 東京都板橋区小豆沢4-11-3 Tel.03-3966-6056</p>	<p>株式会社 トキタ</p> <p>代表取締役</p> <p>26.C 時田 <sup>きみしろ</sup>公代</p> <p>本社 〒174 東京都板橋区坂下1-17-19 トキタビル Tel.03-3960-7701 Fax.03-3558-6980</p>
<p>日東不動産株式会社(東京都知事免許(9)第6129号) 三井不動産販売(株)特約店 常務取締役</p> <p>4.E 望月 康男</p> <p>〒153 東京都目黒区下目黒1-3-17 アセンド目黒ビル Tel.03-3491-0171 Fax.03-3491-1255</p>	<p>大橋特許事務所 弁理士</p> <p>17.E 大橋邦彦</p> <p>〒113 東京都文京区本郷3-30-9 本郷ZSビル 事務所Tel.03-3814-5921 自宅Tel.03-3957-1533</p>	<p>株式会社 斉藤商店 (精肉・食品卸) 代表取締役</p> <p>29.F 斉藤 智夫</p> <p>〒112 東京都文京区白山5-1-15 Tel.03-3815-5771 Fax.03-3816-2981 Tel.03-3815-0029</p>
<p>株式会社 村口計画設計事務所 所長・一級建築士・日本工業大学 建築学科教授</p> <p>5.B 村口 昌之</p> <p>〒150 東京都渋谷区神宮前3-7-1 マリオンビル502 Tel.033402-2420 Fax.03-3402-2512</p>	<p>野中滋税理士事務所 税理士</p> <p>18.C 野中 滋</p> <p>事務所〒170 東京都豊島区駒込1-3-6 アザリア駒込802 中根宏税理士事務所内Tel.03-3945-8594 自宅〒170 東京都豊島区東池袋2-52-1 Tel.03-3982-6492</p>	<p>虎の門 日比谷クリニック (皮膚科・泌尿器科・形成外科 健保扱い)</p> <p>一.C 山中 秀男</p> <p>自〒152 東京都目黒区本町4-8-20 Tel.03-3714-9513 医院〒105 東京都港区虎ノ門1-1-20 Tel.03-3508-2508</p>
<p>株式会社 経営開発センター (教育訓練・指導・分析・調査) 代表取締役</p> <p>5.E 中村 昌男</p> <p>研究所 〒101 東京都千代田区神田駿河台2-3-401 Tel.03-3295-8363 Fax.03-3295-8050</p>	<p>宮本智法律事務所</p> <p>18.H 宮本 智</p> <p>〒169 東京都新宿区北新宿1-8-23 アムハードビル7F 会社Tel.03-5386-6911代 自宅Tel.048-474-8456</p>	<p>小林学習塾</p> <p>一.B 小林 一夫</p> <p>〒174 東京都板橋区東山町5-13 Tel.&amp;Fax.03-3972-1227</p>
<p>18年間も毎月開いている同窓有志のサロン</p> <p>市 三 会</p> <p>世話人一.B 末正明 一.B 栗原正昭 4.E 榎本幸三 ※入会ご希望のOBの方は世話人・末まで03-3811-0755</p>	<p>野球部OB会</p> <p>都立文京高校球紫会</p> <p>会長 16.H 土屋 昌昭 会員一同</p>	<p>都立文京高校 PTA OB会</p> <p>文 京 会</p> <p>会長 長谷川 剛 / 会員一同</p>

奨学基金募集 協力者 一口五千元 90名 143口 総額 715,000円 平成4年1月～4年12月

三口	埴原富士雄	四E	古澤 圭祐	25F	村瀬 和夫	4F	鈴木 秀男	8B	齋藤 広保	21A	
平木 智彦	恩師	森 康全	2B	一口	大橋 順二	5B	石井 禎郎	9F	茂木 幸藏	21C	
十口	鈴木 晃	3A	吉野 雅博	二E	福永 頌	5B	仲田 晋	9F	酒井 充	23D	
末 正明	一B	中村 博	3B	大久保 襄	三C	村口 昌之	5B	名取美智子	10B	羽場 弘明	27C
六口	高瀬 忠璋	3C	藤ヶ谷敏明	三C	川村 長一	5C	内山 盛雄	11A	嶋田由利子	27G	
磯畑 行雄	二C	高梨 眞守	3E	三田 康久	四A	延島 三男	5E	真部 允宏	11A	武田 正人	31F
仲本 英雄	6B	塚越 弘二	3E	河野 進	1A	岡部美代子	5F	矢崎 哲朗	12A	富沢 浩子	32F
五口	椎名 健二	5E	信田 重昭	1B	鈴木 明夫	6A	伊藤 博	12C	神保 文子	36D	
佐藤 佳男	4C	右高 研至	5F	久井健一郎	1B	練木 允雄	6A	榎木 正義	12C	村井 達夫	37B
四口	神永 明彌	5F	森 理	2A	横島 一郎	6A	初谷 宏一	15B	川西日出海	42I	
渡辺 剛彰	一A	山本 克行	6C	永岡 義久	3A	清野 公夫	6B	川島やす子	15G	大里 浩樹	43C
三角 信行	14C	北島 慎一	7C	宮本 靖雄	3B	多田 実	6B	渡辺 久男	15H	匿名	1名
二口	殿塚 猶一	7D	山本 孝二	3B	帆足 昭夫	6B	石下 勝彦	16B			
腰塚 為久	一C	丸山記久麿	8B	大河内俊雅	3C	夷岡 迪彦	7B	上木 隆人	16D		
中村 信成	一C	宮田 淳	8B	大谷 唱二	3C	小串 玲子	7B	菊地 賢三	16G		
高杉 暹	二A	杉本 安弘	12C	佐伯 智義	4B	旭 一穂	7C	高橋 智子	18A		
堀口 壬也	二B	太田 正明	14B	磯部甲太郎	4D	中尾 充宏	7E	田中 道子	19F		

『同窓会奨学基金表彰』 三年間を通じ成績・学習態度の優秀な卒業生に各一万円の図書券を贈りました。(本年度28名)

『五十周年記念紫筍特集号』賛助金 協力者 一口五千元 183名 350口他8件 総額 1,792,000円 平成4年11月現在

百口	椿 光弘	24H	芳井 巖	四B	清野 公夫	6B	福島 孝弘	14B	梶野 雄二	23B	
末 正明	一B	古澤 圭祐	25F	舟橋 二郎	四B	多田 実	6B	新宮領 篁	15E	片田 洋子	23B
四十四口	田辺 晃	31E	菊池 達長	四C	山本 克行	6C	川島やす子	15G	酒井 充	23D	
渡辺 剛彰	一A	八千円	河野 進	1A	早瀬 久雄	6D	寺田 篤子	15G	細谷 一夫	23D	
六口	高橋 努	3A	藤沢 豊彦	1B	生島 惟好	7C	三宅 捷太	16C	大野 信子	23E	
土屋 昌昭	16H	中村 博	3B	信田 重昭	1B	山田 豊	7D	上木 隆人	16D	江利川みどり	23H
三口	神戸 善裕	3C	木村 精二	2B	宮崎 充弘	7D	菊地 賢三	16G	吉川 光一	24H	
藤吉 邦三	一B	植村 耕作	3E	森 康全	2B	中尾 充宏	7E	齊藤美代子	18A	海老沼正和	25A
二口	一口		三村 忠正	2D	鈴木 秀男	8B	高橋 智子	18A	時田 公代	26C	
上田 龍夫	一B	平木 智彦	旧職	青柳広一郎	3A	宮田 淳	8B	大畑 嘉子	18B	佐藤 美子	26I
小林 一夫	一B	亀井 俊郎	一A	鈴木 晃	3A	毛利 寿男	8E	野中 滋	18C	早野 真芳	26H
花形 弘道	二A	佐土井正三	一A	永岡 義久	3A	原 謙一郎	9B	遠藤 繁夫	18E	隈本 真理	27B
堀口 壬也	二B	鈴木 悟郎	一A	山本 孝二	3B	佐野 雅英	9C	寺田 有恒	18J	山崎 明朗	27C
佐藤 有道	三C	五十嵐 眞	一C	岩波 哲男	3C	関 興一	9E	星野 久男	19E	羽場 弘明	27C
高橋 明	四A	石川 寛信	一C	大河内俊雅	3C	石井 禎郎	9F	大関 茂	19D	木村 弘子	28C
高梨 眞守	3E	西岡 弘	一C	大谷 唱二	3C	仲田 晋	9F	池田 卓	19F	三井 由美	31A
塚越 弘二	3E	細田 泰生	一D	矢島 光春	3C	吉田 靖雄	10B	田中 道子	19F	塚越 淳	31E
佐藤 佳男	4C	宗島 剛松	一D	田中 瑞穂	3D	名取美智子	10B	袖沢 利昭	19I	中村 秀輝	31E
岸山 和義	4F	匿名	一D	佐伯 智義	4B	草処 功保	10C	向井知恵子	20D	武田 正人	31F
川村 長一	5C	高杉 暹	二A	村瀬 和夫	4F	橋本 光夫	10D	高野 賢司	20G	田島 正樹	32F
青木 潔	6A	樋口 良雄	二A	水口 俊夏	5A	内山 盛雄	11A	田中 一郎	20G	富沢 浩子	32F
椎橋 章二	6A	小島 義郎	二B	大橋 順二	5B	大柳 良伸	11A	大野 透	20H	濱 有恒	33B
佐藤 治夫	6E	小林 敏男	二B	福永 頌	5B	真部 允宏	11A	齋藤 広保	21A	河合 裕子	35A
岡本 一正	7C	今田 周作	二D	村口 昌久	5B	大澤 昌平	11C	小野 正人	21B	匿名	37B
丸山記久麿	8B	小川 武義	二E	椎名 健二	5E	荒井 和	11D	茂木 幸藏	21C	川西日出海	42I
杉本 安弘	12C	柿沼 秀雄	二E	延島 三男	5E	清水 美治	11D	永山 加秀	21D	大里 浩樹	43C
三角 信行	14C	大久保 襄	三C	熊谷 哲子	5E	佐伯 祥江	11F	佐藤 貞二	21D	三千円	
藤原とし子	16A	藤ヶ谷敏明	三C	右高 研至	5F	矢崎 哲朗	12A	古賀 道明	21E	谷岡 淑郎	3D
須賀 靖夫	16E	柴田 哲夫	三E	神永 明彌	5F	渡辺 敦夫	12B	安田 敏行	21H	隈田 幸男	4C
浜野 眞一	19D	永山 升三	三E	鈴木 孝	6A	榎木 正義	12C	白井 健	22D	内山 盛雄	11A
浅岡 秀行	20E	君塚 朔郎	四A	練木 允雄	6A	鈴木 孝	13C	長田 直樹	22D	千円	
渡部 曜	23H	三田 康久	四A	横島 一郎	6A	山本 誠	13D	井下田弥生	22E	北条 芳治	37B

記念祝賀会に多数の寄贈品がありました。酒類 浮島明進氏 樋口良雄氏 静谷晴夫氏 川上光男氏  
カメラ等景品・生花 杉本安弘氏 三輪瑛逸氏 若林百合子さん 林敏子さん 長谷川節子さん 他



平成4年度・予算案

〔収入〕	10,544,063円
繰越金	3,769,063円
利息	1,000,000円
会費 (12,500×422)	5,275,000円
その他(賛助金・奨学金など)	500,000円
〔支出〕	8,513,000円
経常費	6,263,000円
各部(名簿・会報各5,000)	
事務手当(10,000×4)	50,000円
名簿(600部とバラ)	2,370,000円
会報(50×14,300)	715,000円
送料(72×13,000)	936,000円
宛名書き(140,000円)	
発送費(120,000円)	260,000円
学校案内(91×2,000)	182,000円
後援費(母校・卒業生)	100,000円
通信・交通費	150,000円
運営費	100,000円
表彰費	300,000円
記録・写真費	50,000円
慶弔費	50,000円
予備費	200,000円
基本財産	2,000,000円
奨学基金	250,000円
〔繰越金〕	2,031,063円

〔編集後記〕

同窓生の卒業期を略するばあいに、慣例に従って、旧制は漢数字、新制は算用数字を用いた。

今回の『紫笥』は、おおきな特集号。素晴らしい原稿・写真が集まり、編集会議で、これも大胆な発想で、判型・文字ともに大きく読みやすい『紫笥』と決めた。だが100gを超えると送料が百万円余計に掛かる。頁数・厚さに限界がある。委員が集まるのは、仕事の合間だから大変である。

実際の作業では、同窓会館までとは言わぬが、同窓会室が無いのが痛い。今後の課題である。

12月に発行の予定であったが特集号の重みもあり編集委員は正月休み返上の編集作業となってしまった。至らぬ点は文京卒業生諸君の寛容にお願いする。

卒業生約1万7千5百人、うち住所の判らない人を除く1万4千人に発送する。無事着いてくれと念じつつ編集作業を終える。 1993.1.10

〔編集委員〕

委員長 一B 末 正明	一C 西岡 弘
一B 川上 光男	一B 栗原 正昭
二A 本橋 一浩	三C 藤ヶ谷敏明
四C 菊池 達長	四A 高橋 明
4E 榎本 幸三	4E 望月 康男
12C 杉本 安弘	23H 渡部 曜
	43F 佐藤 智美
	二A 樋口 良雄
	四B 静谷 晴夫
	3A 太田 敏夫
	5D 林 敏子

ビデオ『文京高校50周年記念式典・祝賀会』  
全収録・上下2巻240分(4時間) 頒価10,000円  
申込先: 市三会 電話03-3811-0755 振替東京2-93105

平成3年度・都立文京高等学校同窓会会計報告

平成3年5月16日～平成4年3月31日

会長 渡辺剛彰 会計 太田敏夫

会計監査 土屋昌昭 野中 滋

1. 財産目録	平成4年3月31日
イ. 基本財産	25,800,000円
ロ. 現金	3,769,063円
ハ. 物品①両開書庫4 ②書類入れ1 ③金庫2	
④手提金庫1 ⑤机2いす1 ⑥ファイル1	
⑦ストープ1 ⑧カメラ3 ⑨三脚1	
ニ. 郵便口座(3/25 現在77号)	204,000円
ホ. 奨学基金(含累積利息)	5,206,057円
ヘ. 会館建設基金( " )	3,136,675円
ト. 50周年基金( " )	4,273,186円*1
2. 現金	
イ. 収入	11,822,135円
繰越し	2,459,915円
会費(3年度卒12,000×435)	5,220,000円
利息	1,055,283円
郵便振替	3,002,000円
その他賛助金、奨学金、名簿代等	84,937円
ロ. 支出	8,053,072円
経常費	5,828,072円
各部・事務手当	50,000円
名簿(3,700×750とバラ355組)	2,917,000円
会報(50×13,800+税2)	720,393円
送料(72×12,698)	914,256円
宛名書き・発送	260,000円
学校案内(88×2,000+消費税)	181,280円
後援費	40,000円
表彰(28名)	280,000円
運営費	82,567円
通信・交通費	145,905円
記録・写真費	35,421円
封筒	96,000円
アンケート用紙など	100,100円
慶弔費	0円
その他(カメラ修理)	5,150円
基本財産	2,000,000円
会館建設基金	100,000円
奨学基金	125,000円
ハ. 繰越し	3,769,063円

(\*1) 70万円は基本財産の利息なので、残金は基本財産に入れる。





『紫筍』

第35号・1992年

発行・平成5年1月15日

発行者・東京都立文京高等学校同窓会『紫筍』編集委員会  
〒170 東京都豊島区西巣鴨一丁目一番地五号 東京都立文京高等学校内  
電話番号 03-3910-8231 / 郵便振替 東京 0-62011